



# 2018年度 大学IRコンソーシアム 学生調査結果報告

2020年3月  
藤女子大学IR専門部会

文部科学省によって、学生の学修成果の可視化と把握が求められ、また第3サイクルを迎えた認証評価では「内部質保証の実質化」が求められています。その要の一つとして、学内データを収集・分析し、改善施策を立案、施策の実行・検証を行うIR（Institutional Research）機能があります。本学でも、2017年5月IR専門部会を発足させ、学生の学修・満足度等のデータを収集、解析、公表をしてきました。しかし、本学だけのデータでは評価が難しく、他大学との比較が必要と判断されました。そこで、2018年に国公私立62大学が加盟する大学IRコンソーシアムの会員となり、早速2018年度の学生に対し、学修行動や学習時間、能力に関する自己評価、満足度を中心としたコンソーシアム共通の調査項目で学生調査を実施しました。

この度、その調査結果をまとめコンソーシアム会員校全体との比較を行いながら、本学の現状を把握し分析したので報告いたします。部会としての解析・提言を、コメントとして各欄に掲載いたしました。この学生調査データを元に学内各部署毎にIRを行いPDCAを回し、大学の大きなIR、PDCAに繋げていきたいと考えています。このような学生調査は、継続することで学生の経年変化や成長を調べることが出来ます。また、学内の教学データとリンクさせることで、学修成果に関するアセスメントにも発展できることから、今後も継続して取り組んでいきたいと考えております。データの性質上全部を公開することは不可能ですので、分析結果の一部をご報告しております。ご高覧いただけたら幸いです。

藤女子大学IR専門部会

## I. 学生アンケート回答率内訳

## II. 学生アンケートの両学部・加盟大学比較結果

1. 学修に関する経験
2. 時間の使い方
3. 教育への満足度
4. 設備・制度への満足度
5. 授業での経験
6. 能力の変化

※アンケート集計結果は「大学IRコンソーシアム」の調査結果を利用しております。

# 学生アンケート回答率内訳

2018年度 IRコンソーシアム 学生アンケート回答者

学科 学年	英語文化学科			日本語・日本文学科			文化総合学科			文学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	85	93	91.4%	80	83	96.4%	67	107	62.6%	232	283	82.0%
2年	69	87	79.3%	85	102	83.3%	47	88	53.4%	201	277	72.6%
3年	74	80	92.5%	69	98	70.4%	55	91	60.4%	198	269	73.6%
4年	54	83	65.1%	36	85	42.4%	41	94	43.6%	131	262	50.0%
学科計	282	343	82.2%	270	368	73.4%	210	380	55.3%	762	1,091	69.8%

学科 学年	人間生活学科			食物栄養学科			保育学科			人間生活学部計		
	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率	回答者数	対象者数	回答率
1年	49	56	87.5%	80	88	90.9%	66	75	88.0%	195	219	89.0%
2年	50	55	90.9%	84	96	87.5%	78	84	92.9%	212	235	90.2%
3年	50	62	80.6%	77	81	95.1%	74	87	85.1%	201	230	87.4%
4年	51	84	60.7%	76	84	90.5%	62	78	79.5%	189	246	76.8%
学科計	200	257	77.8%	317	349	90.8%	280	324	86.4%	797	930	85.7%

※学生アンケート実施期間 2018年11月～12月

2018年10月31日現在在学中の学生(休学者及び海外及び国内協定校留学中の学生を除く。)

		大学計		
学年	回答者数	対象者数	回答率	
1年	427	502	85.1%	
2年	413	512	80.7%	
3年	399	499	80.0%	
4年	320	508	63.0%	
全学年	1,559	2,021	77.1%	

# 1. 学修に関する経験

**Q. 大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたはどのくらい経験しましたか。**

1-1. 授業課題のために図書館の資料を利用した

1-2. 授業課題のために Web上の情報を利用した

1-3. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした

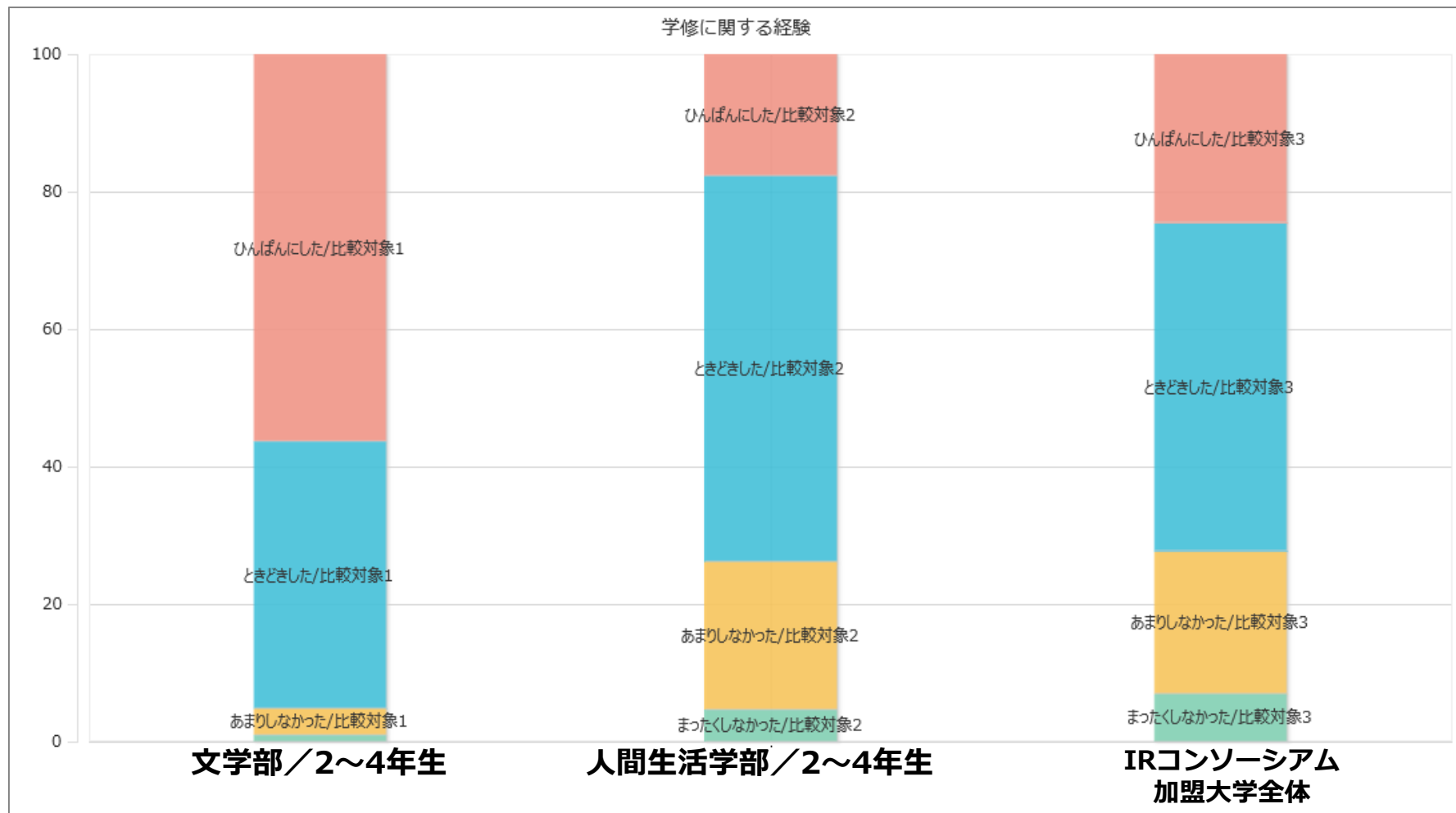
1-4. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした

1-5. 教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした

1-6. 教員に親近感を感じた

# 1-1. 授業課題のために図書館の資料を利用した

[Q5-A]

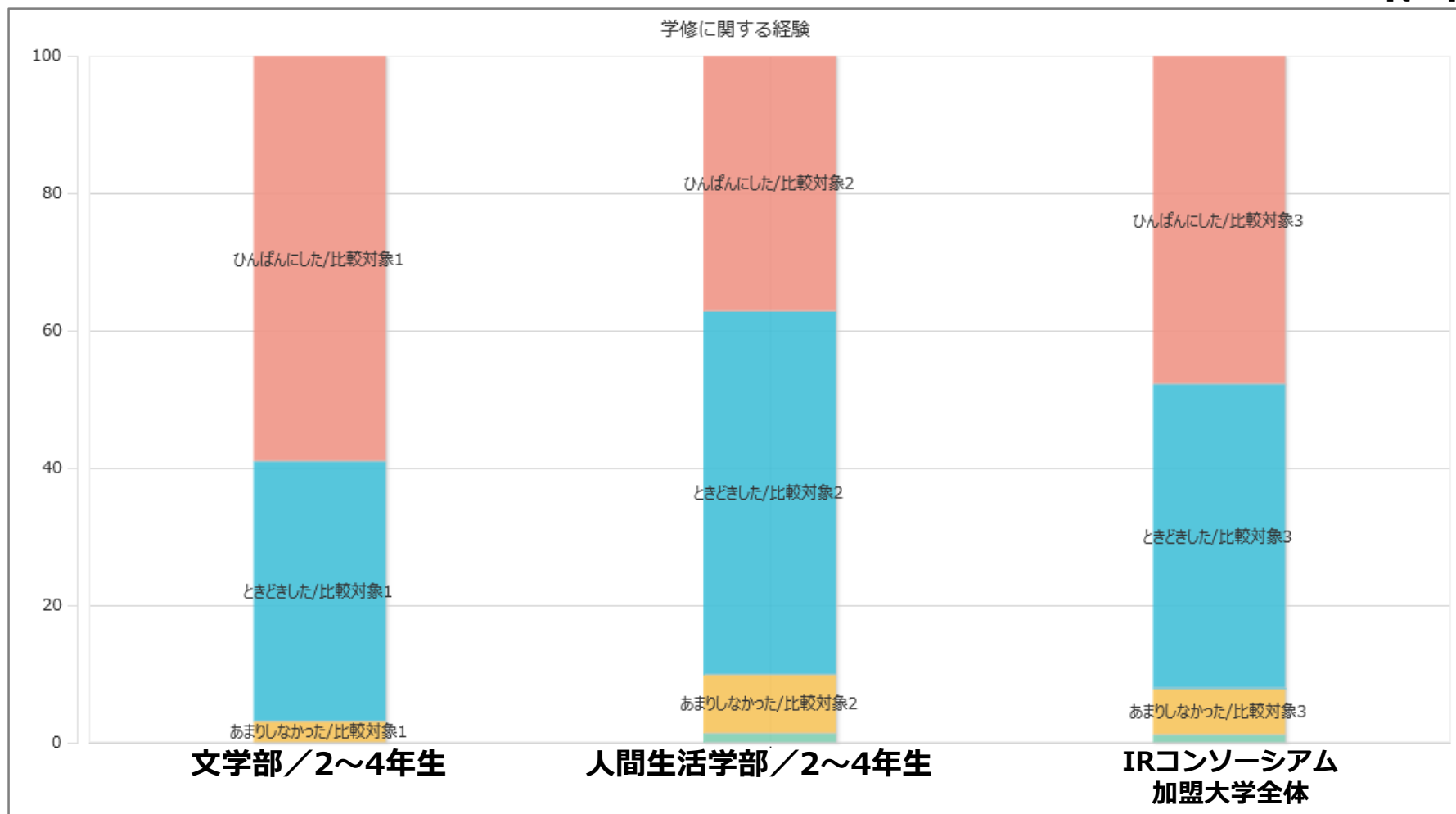


## 【コメント】

文学部は全体平均より図書館利用率がかなり高い。これは図書・資料を利用した課題学習が多いからだとと思われる。人間生活学部は全体平均に比べて「ひんぱんにした」がやや低い。ただし、3学科の特徴がかなり異なるため、学部平均のグラフでは学科ごとの特徴が見えにくい。

## 1-2. 授業課題のために Web 上の情報を利用した

[Q5-B]

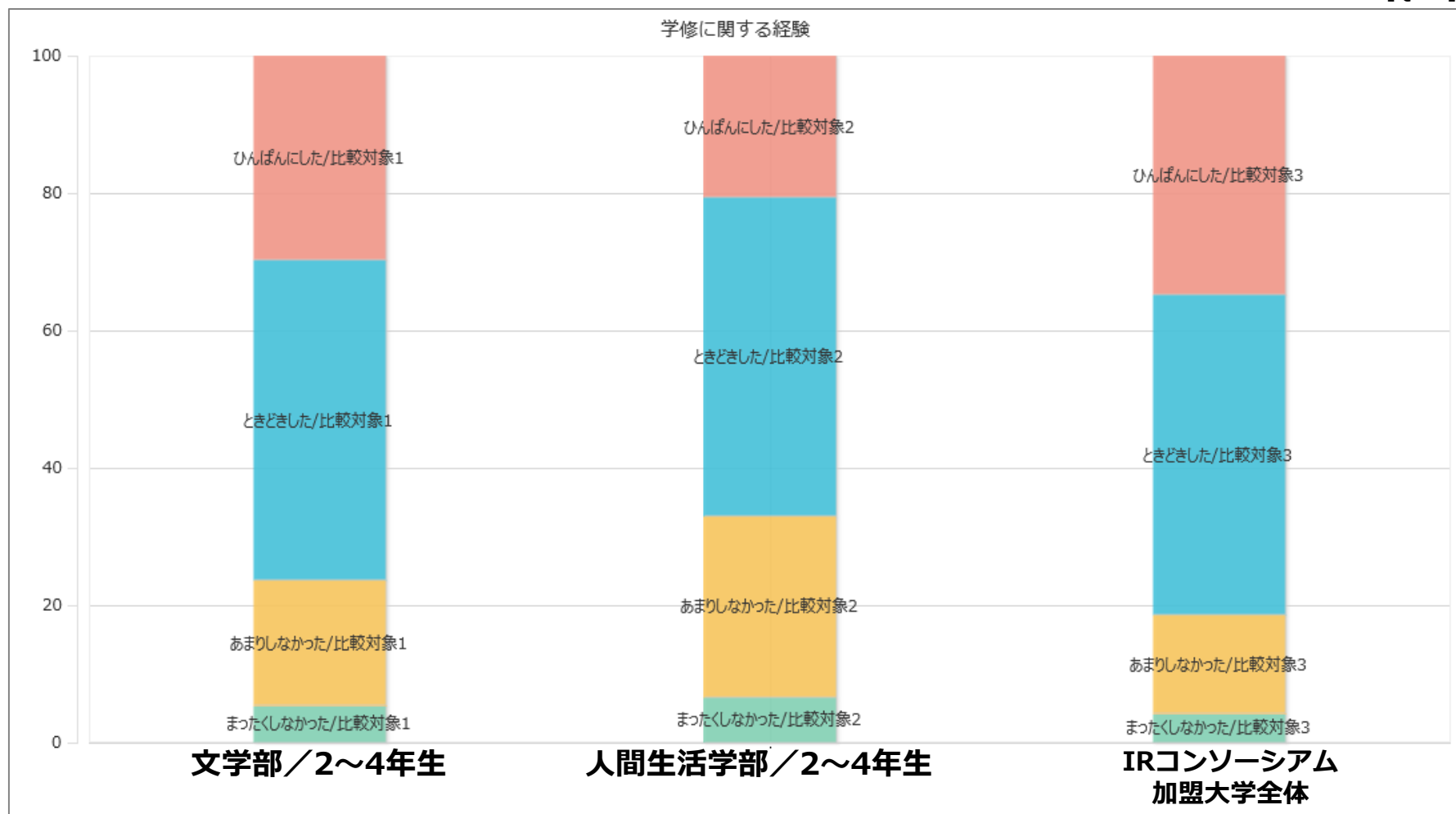


### 【コメント】

文学部は全体平均をやや上回り、人間生活学部では全体平均よりやや低い。文学部では課題学習が多く、その過程でインターネットを利用して調査した学生が多いことが予想される。ただしこの設問はWeb上の情報を利用した割合なので、自分で考えるべきことをインターネットの情報に頼った可能性もあるので、高いから良いということではない可能性もある。

# 1-3. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした

[Q5-C]



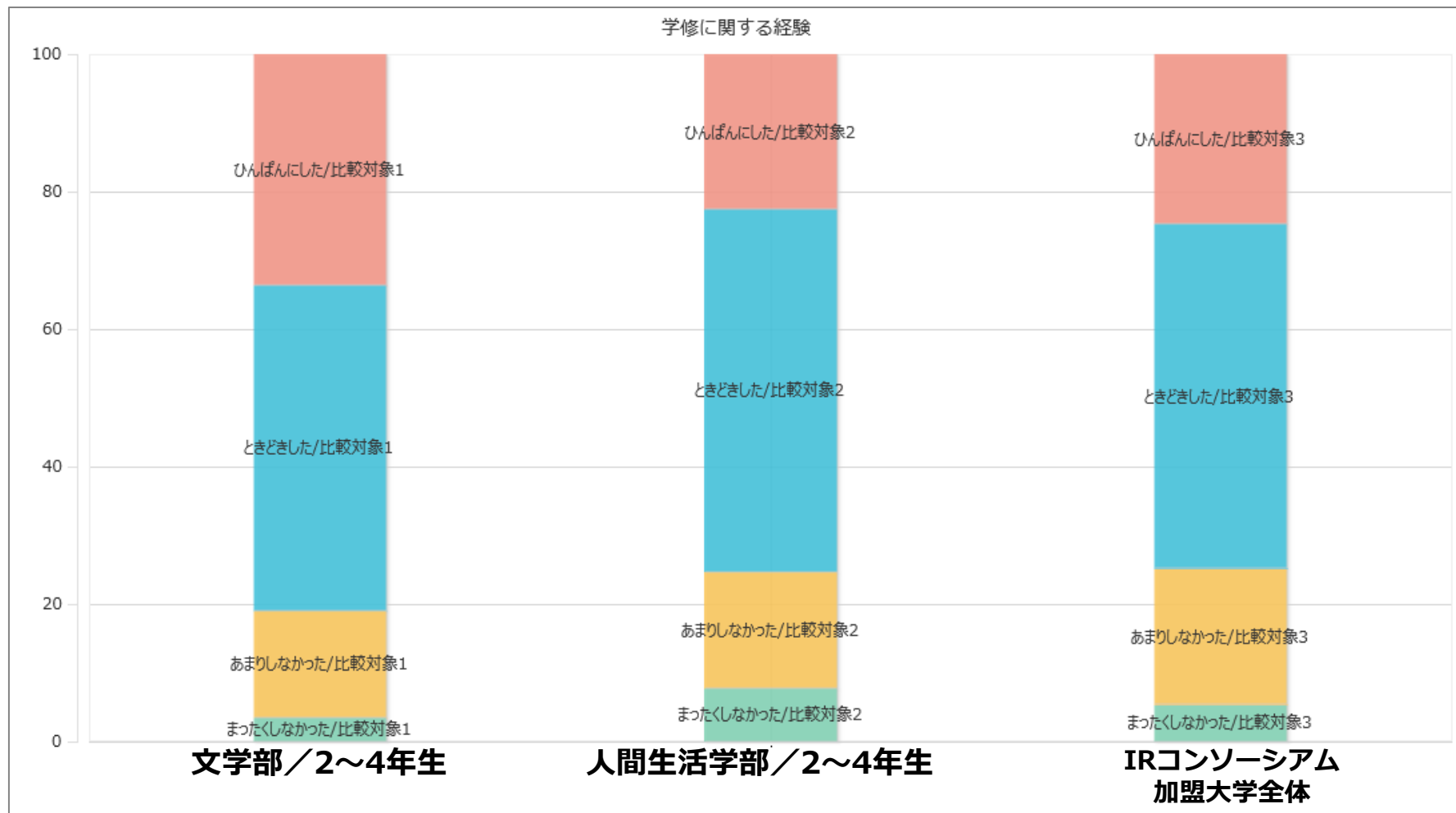
## 【コメント】

文学部、人間生活学部ともに全体平均よりやや低い。  
両学部でICTを利用した授業展開を積極的に検討すべきかもしれない。



# 1-4. 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした

[Q5-E]

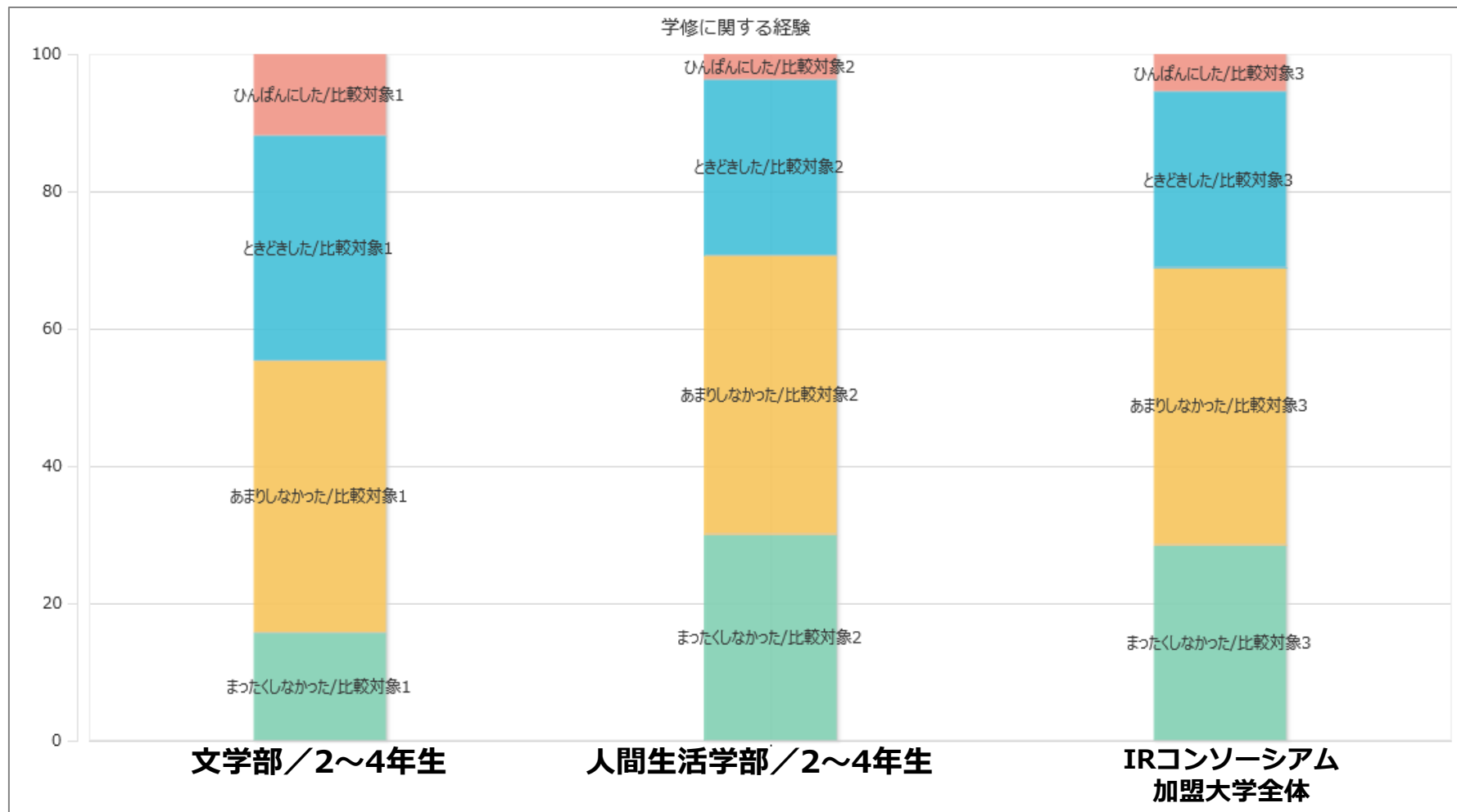


## 【コメント】

文学部は全体平均をやや上回り、人間生活学部は全体平均並である。花川キャンパスは学生滞留率が低いため、友人との学習機会も低い可能性がある。

# 1-5. 教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした

[Q5-K]

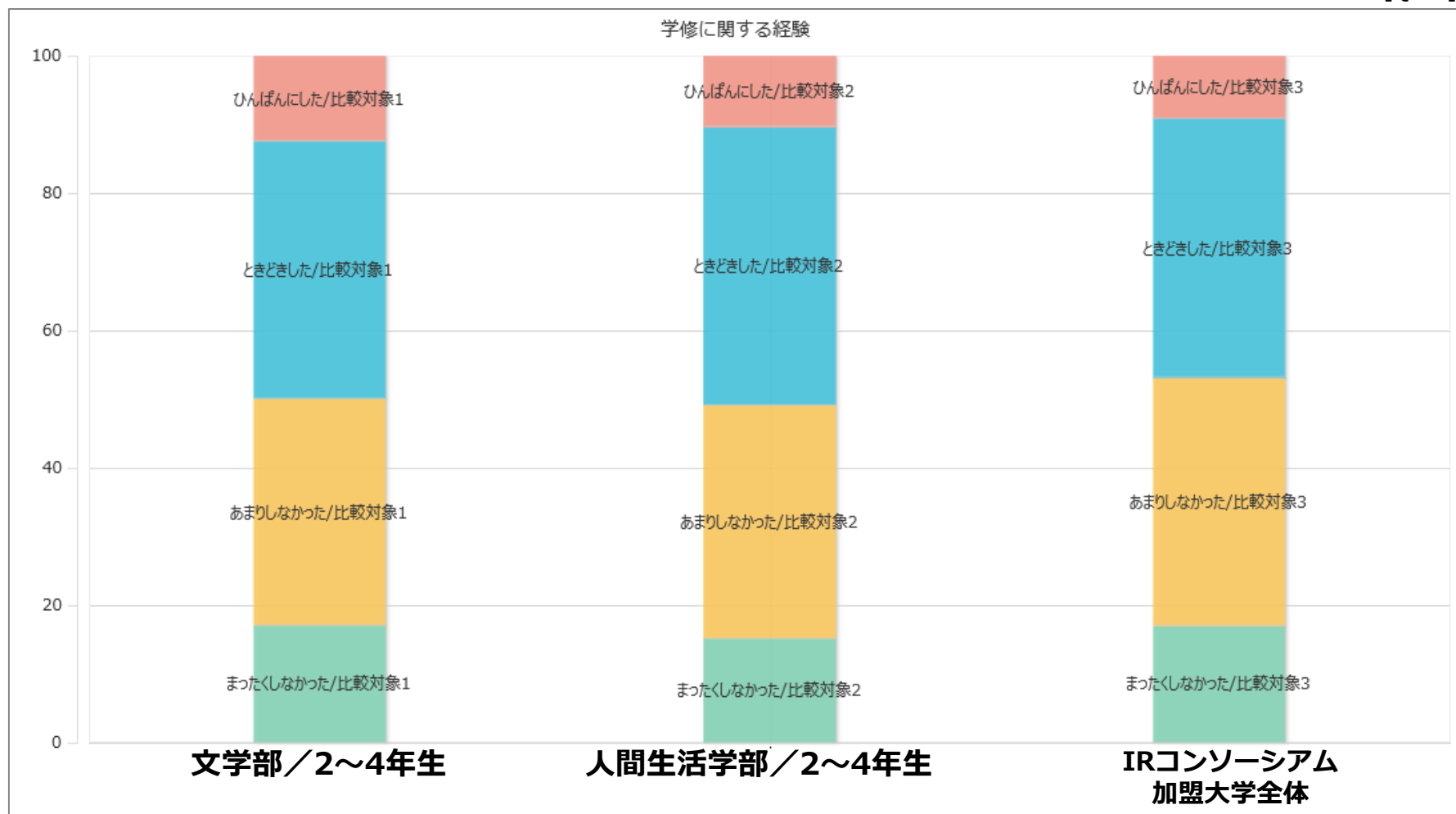


## 【コメント】

文学部は全体平均をやや上回り、人間生活学部は全体平均並である。文学部では少人数教育により教員と学生との距離が近く、教員に相談するハードルが下がっているのかもしれない。

# 1-6. 教員に親近感を感じた

[Q5-N]



## 【コメント】

両学部とも全体平均をわずかに上回っている。しかし「教員との距離が近い、面倒見のいい大学」という本学が売りにしている部分を学生としては実感していないことが分かる。

## 2. 時間の使い方

**Q. あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。**

**2-1. 授業や実験に出る**

**2-2. 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする**

**2-3. 授業時間外に、授業に関連しない勉強をする**

**2-4. オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する**

**2-5. 部活動や同好会に参加する**

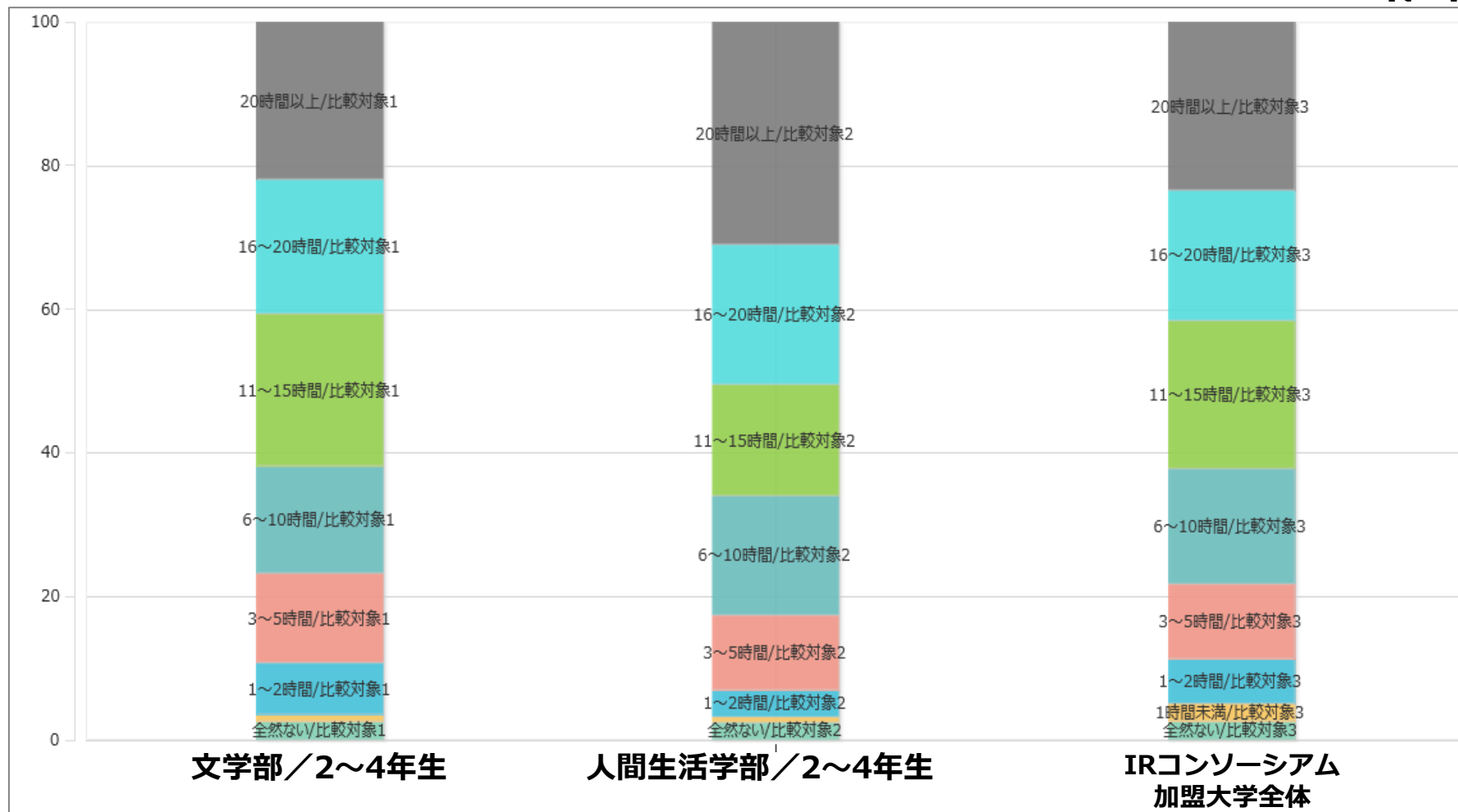
**2-6. 大学外でアルバイトや仕事をする**

**2-7. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）**

**2-8. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）**

## 2-1. 授業や実験に出る

[Q6-A]

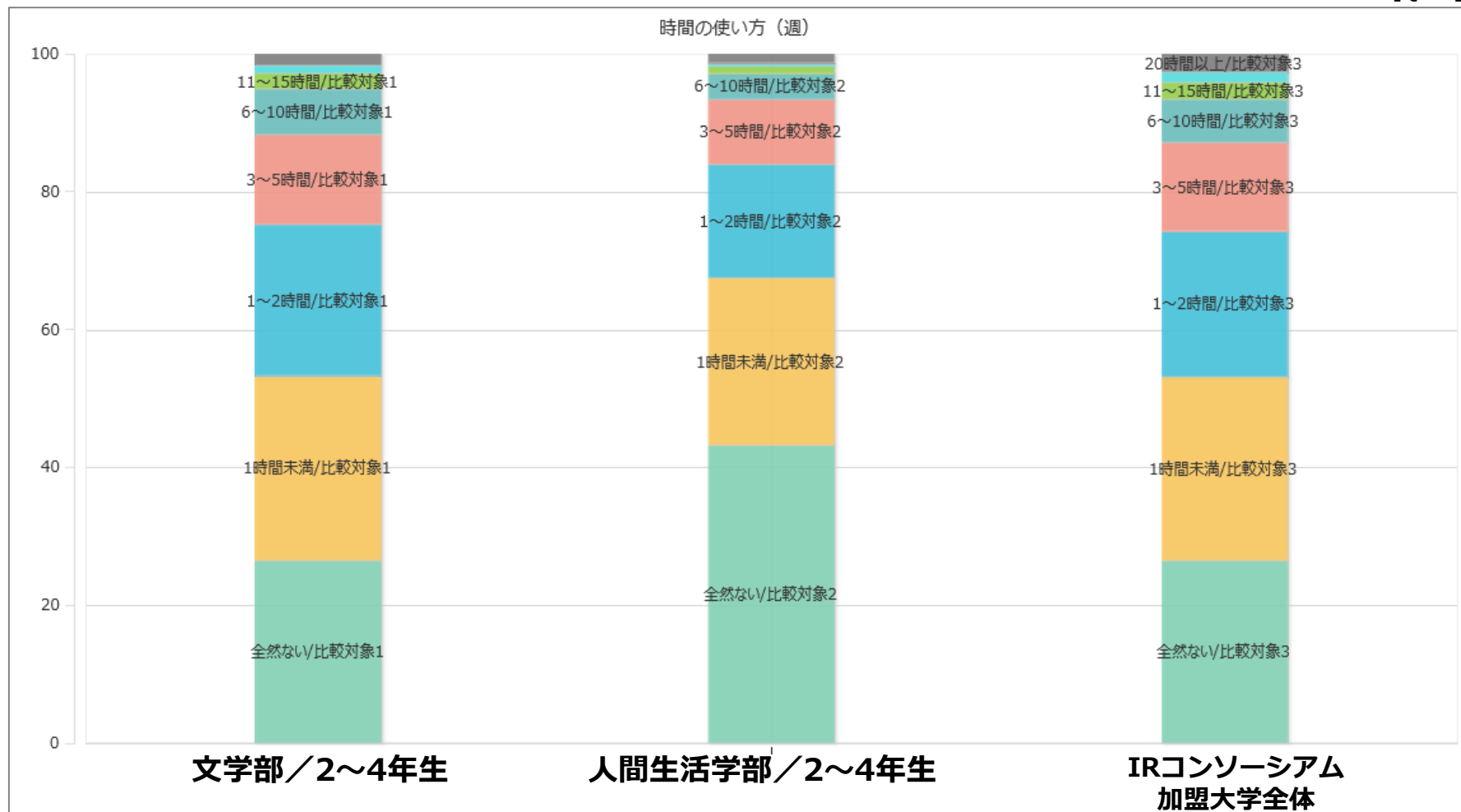


### 【コメント】

文学部は全国平均並み。人間生活学部も全国平均とさほど変わらないようだが、実験、実習の授業の割合が多いため、20時間以上の割合が多くなっていると思われる。

## 2-3. 授業時間外に、授業に関連しない勉強をする

[Q6-C]

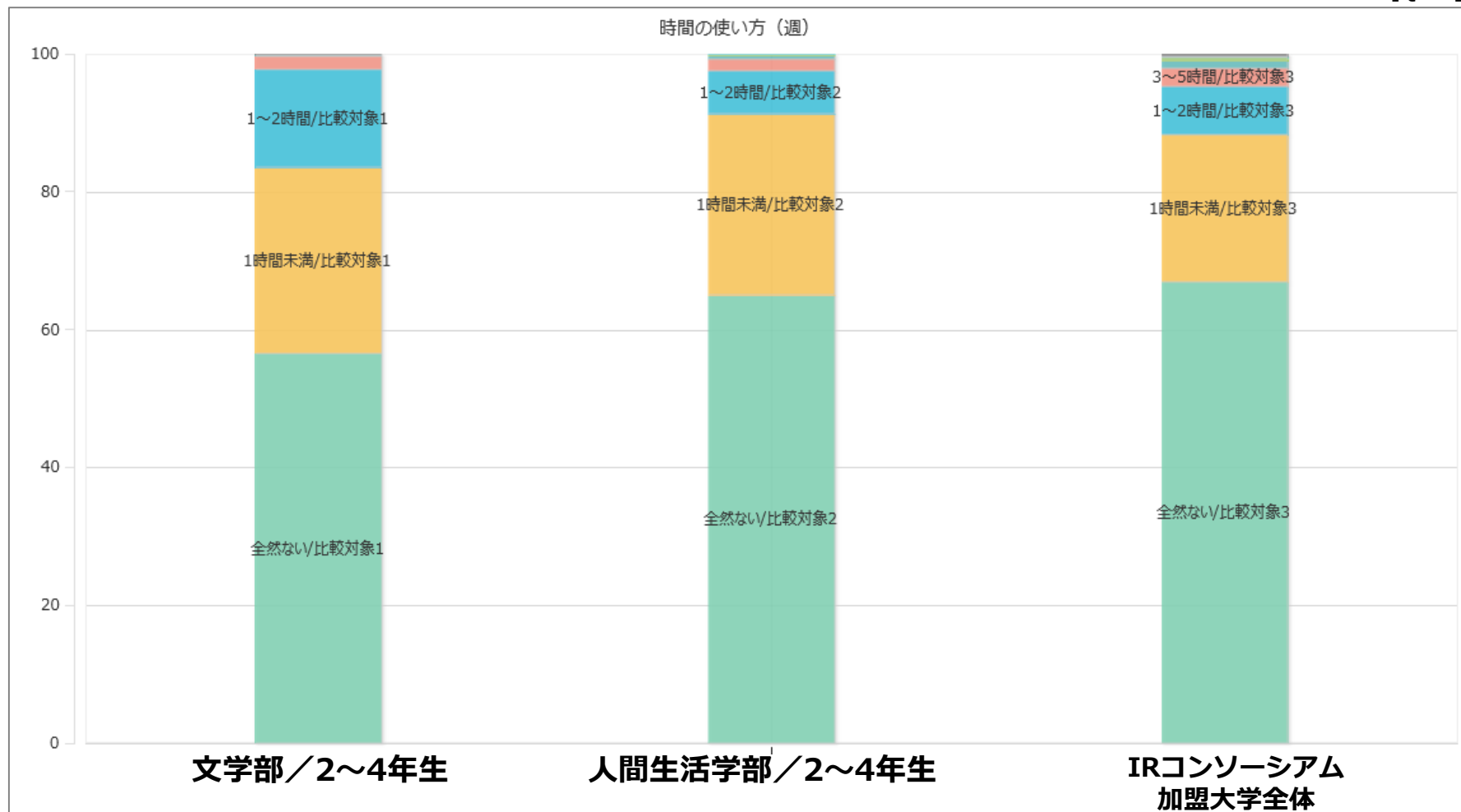


### 【コメント】

文学部は全国平均並み。自分で課題を持って学修する傾向はある。人間生活学部は、授業外の勉強をあまりしていない。資格取得を目的としている学生が多いため、関連している内容を勉強する傾向があると思われる。

## 2-4. オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する

[Q6-D]

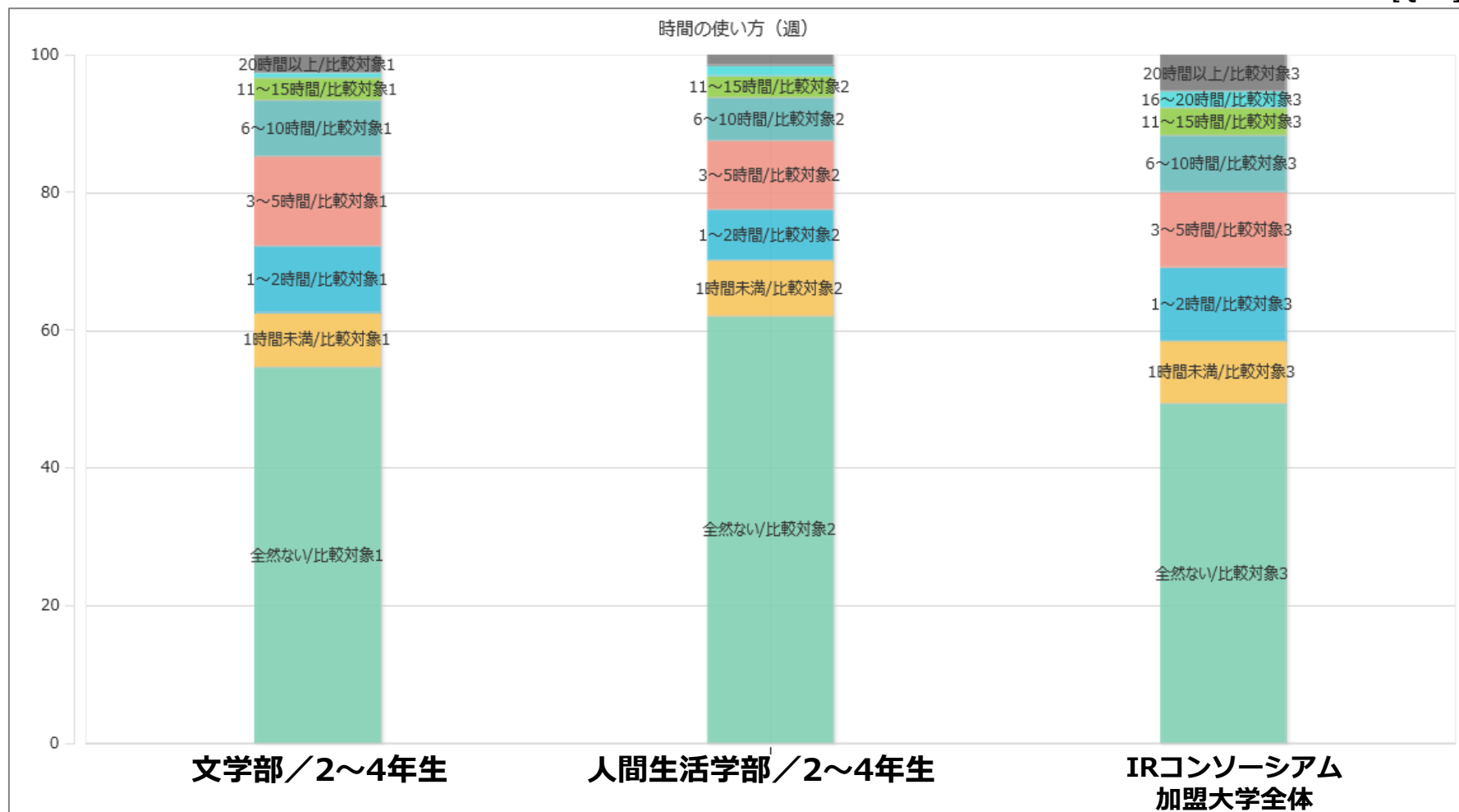


### 【コメント】

文学部はオフィスアワーを比較的に利用しているが、有効的とはまだ言えない。人間生活学部は全国よりは多少利用しているものの、教員とのコミュニケーションは不足していると思われる。両学部とも、1年次の利用が多い（学科が積極的に面談を行っていることもある）。

## 2-5. 部活動や同好会に参加する

[Q6-E]



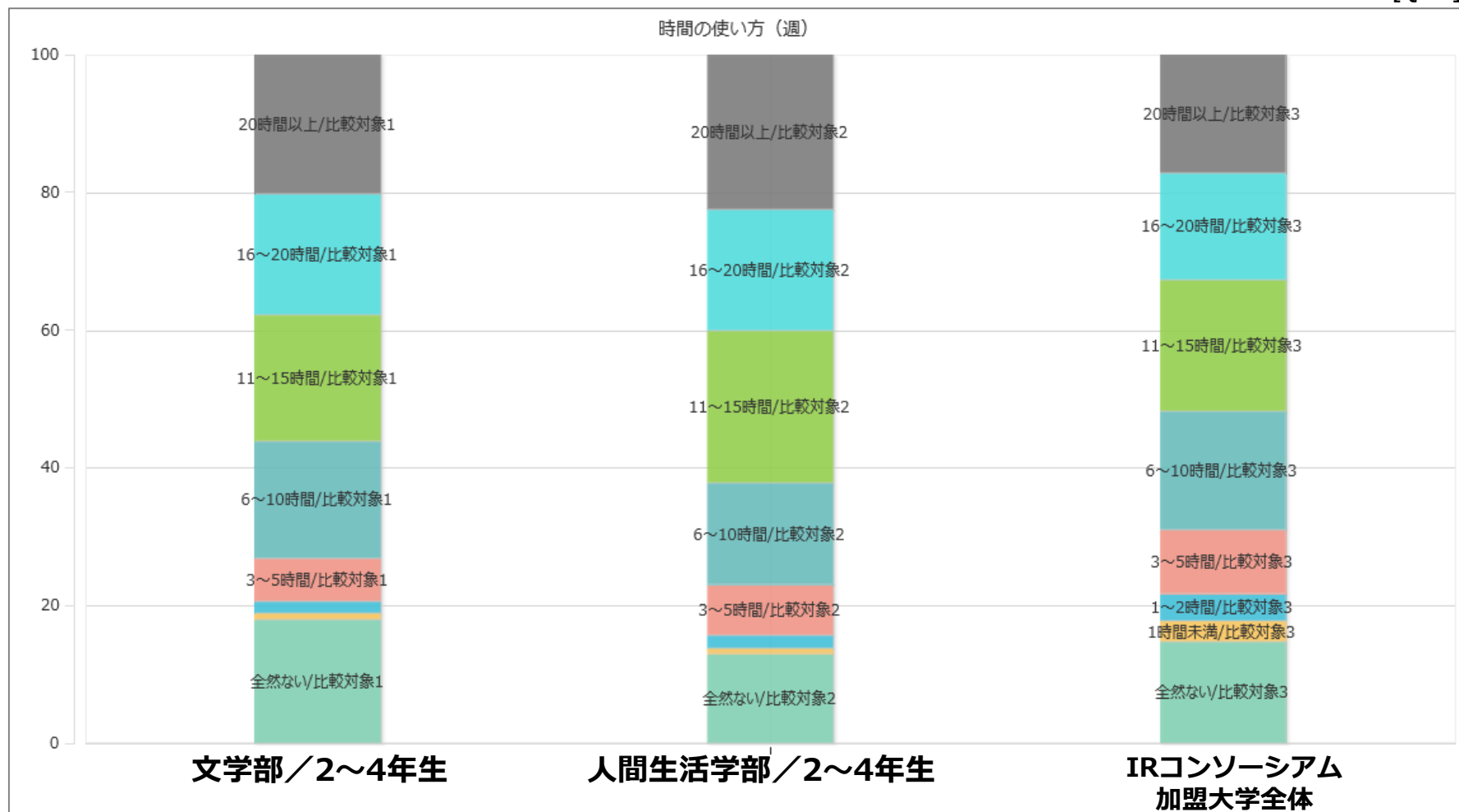
### 【コメント】

文学部は全国より少なめだが半数近くが参加している。人間生活学部は、参加は4割程度で活動時間も少ない。授業での拘束時間、通学時間の影響は少なからずあると思われる。



## 2-6. 大学外でアルバイトや仕事をする

[Q6-F]

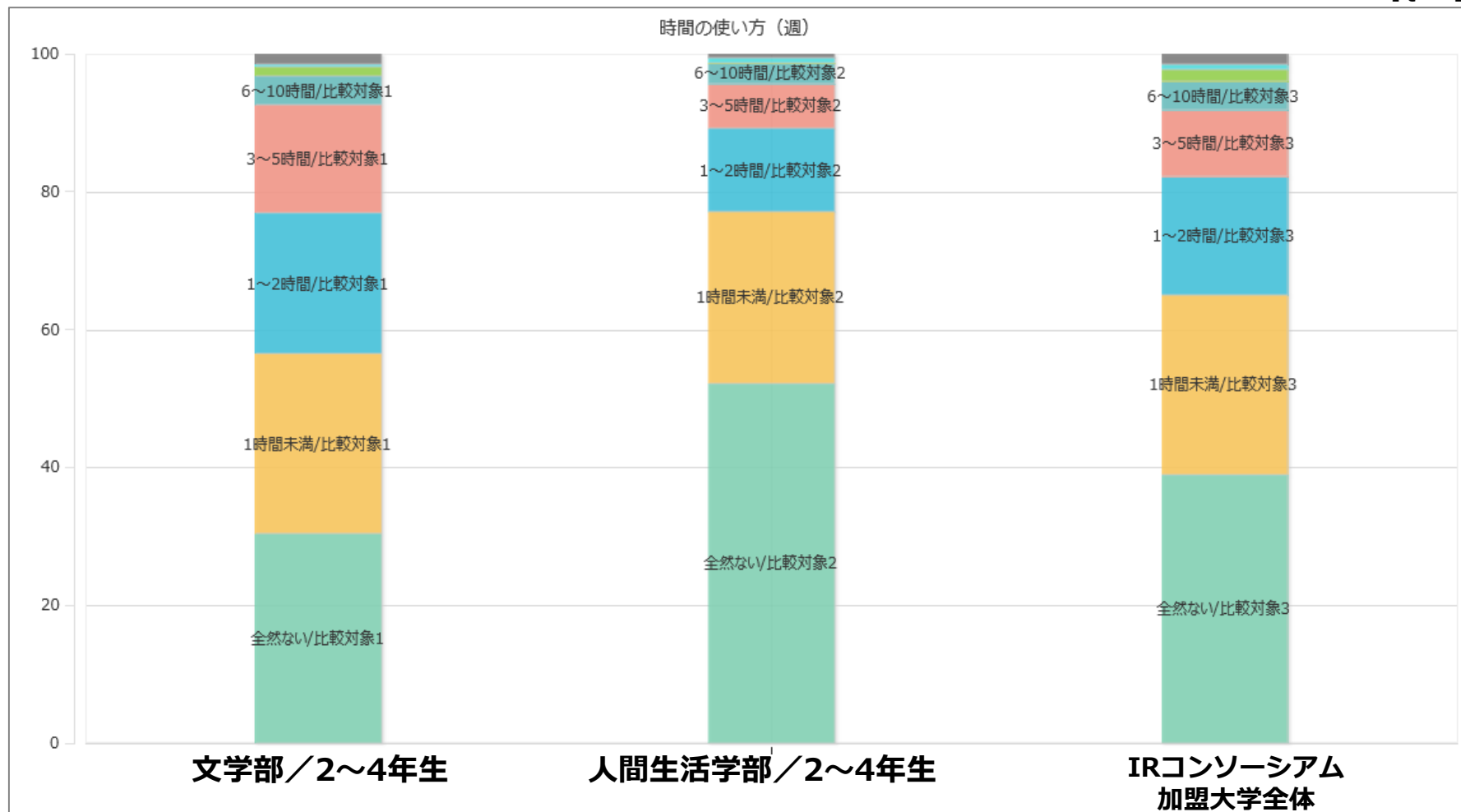


### 【コメント】

文学部は全国平均並み。人間生活学部はアルバイトしている人もアルバイト時間も多し。週に20時間以上となると、週に5日4時間以上働いていることとなり、夜間のアルバイトの場合は、通学や健康面での心配がある。

## 2-7. 読書をする（マンガ・雑誌を除く）

[Q6-G]

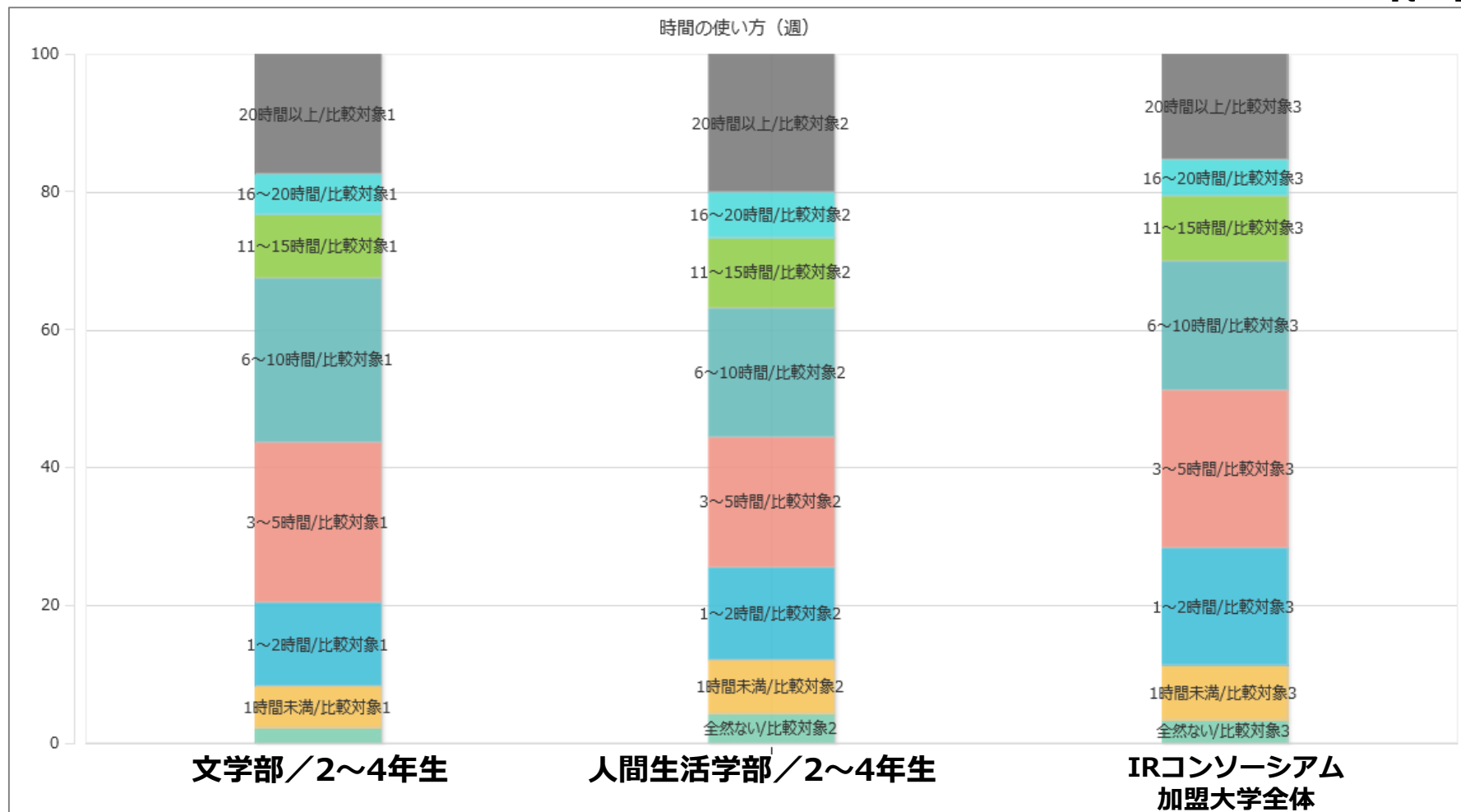


### 【コメント】

文学部は読書にかかる時間も全国平均を大きく上回り、読書率も7割と特徴的である。図書館施設の充実、本を利用した授業、の大きさも要因とみられる。人間生活学部は、全国平均より読書率が低い。あまり読んでいない。両学部とも、1年次のほうが読書していて、次第に読まなくなる傾向がある。

## 2-8. 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）

[Q6-H]



### 【コメント】

両学部ともに趣味活動は広く行っている。人間生活学部は3割強が趣味活動の時間に1日平均2時間以上かけていて勉強する時間が取れていないのではないか、と思われる。

# 3. 教育への満足度

**Q. あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。**

**3-1. 専門教育あるいは所属学科の授業**

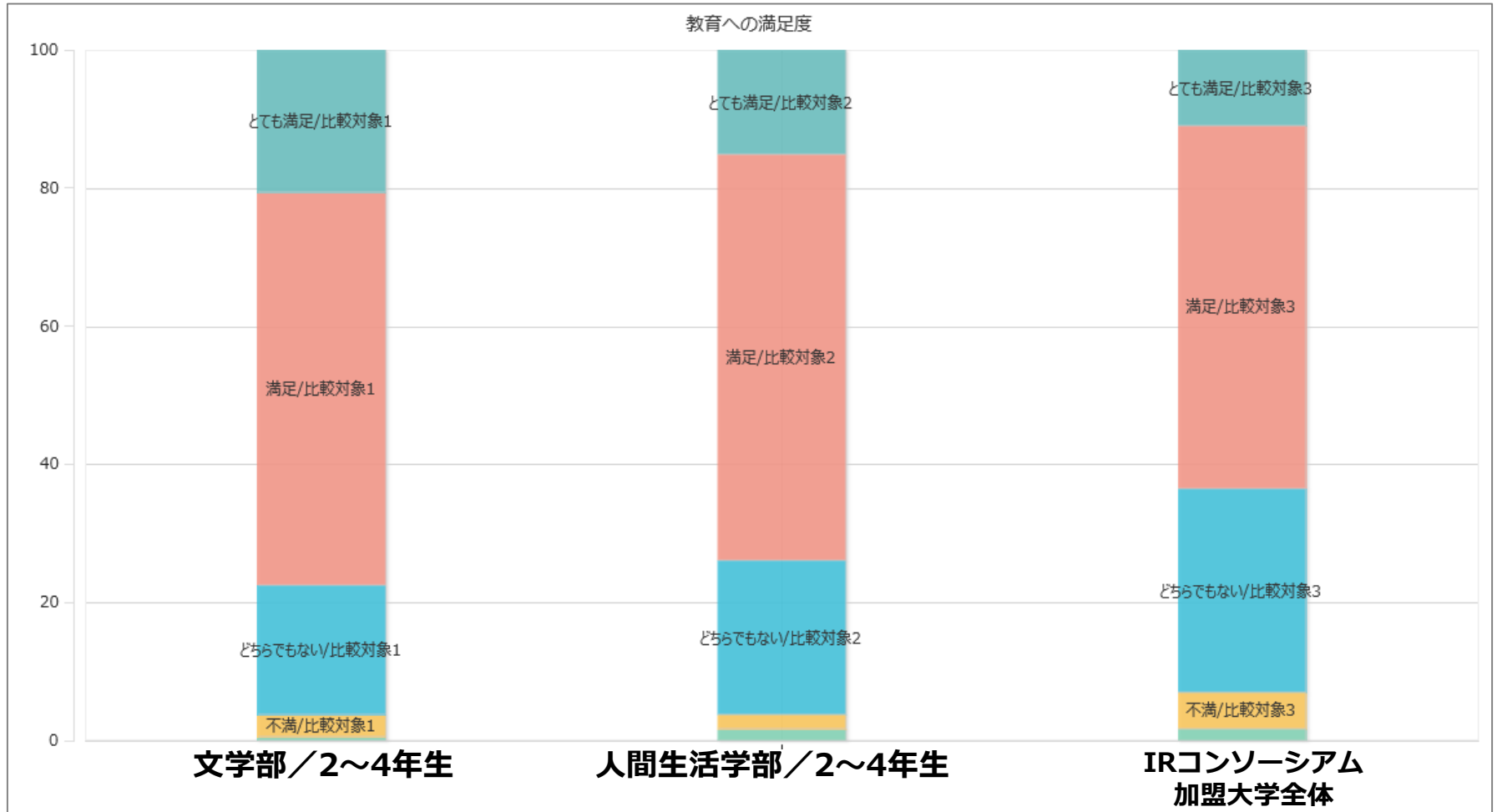
**3-2. 授業の全体的な質**

**3-3. 教員と話をする機会**

**3-4. 多様な考え方を認め合う雰囲気**

### 3-1. 専門教育あるいは所属学科の授業

[Q12-A]

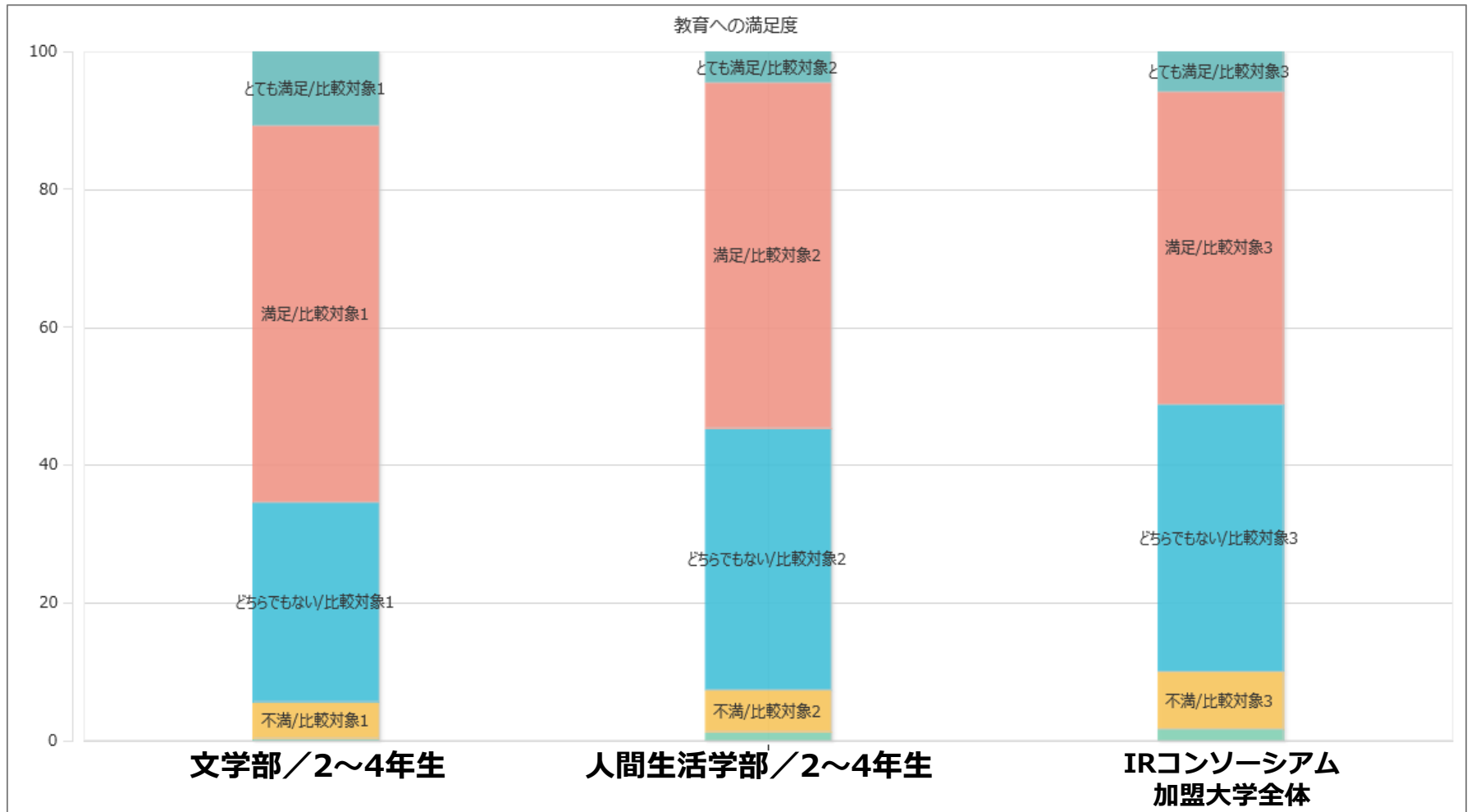


#### 【コメント】

文学部、人間生活学部ともに全国平均より満足度が高い。  
カリキュラムの見直しを行い改善していることが、この結果につながっていると思われる。

## 3-2. 授業の全体的な質

[Q12-C]

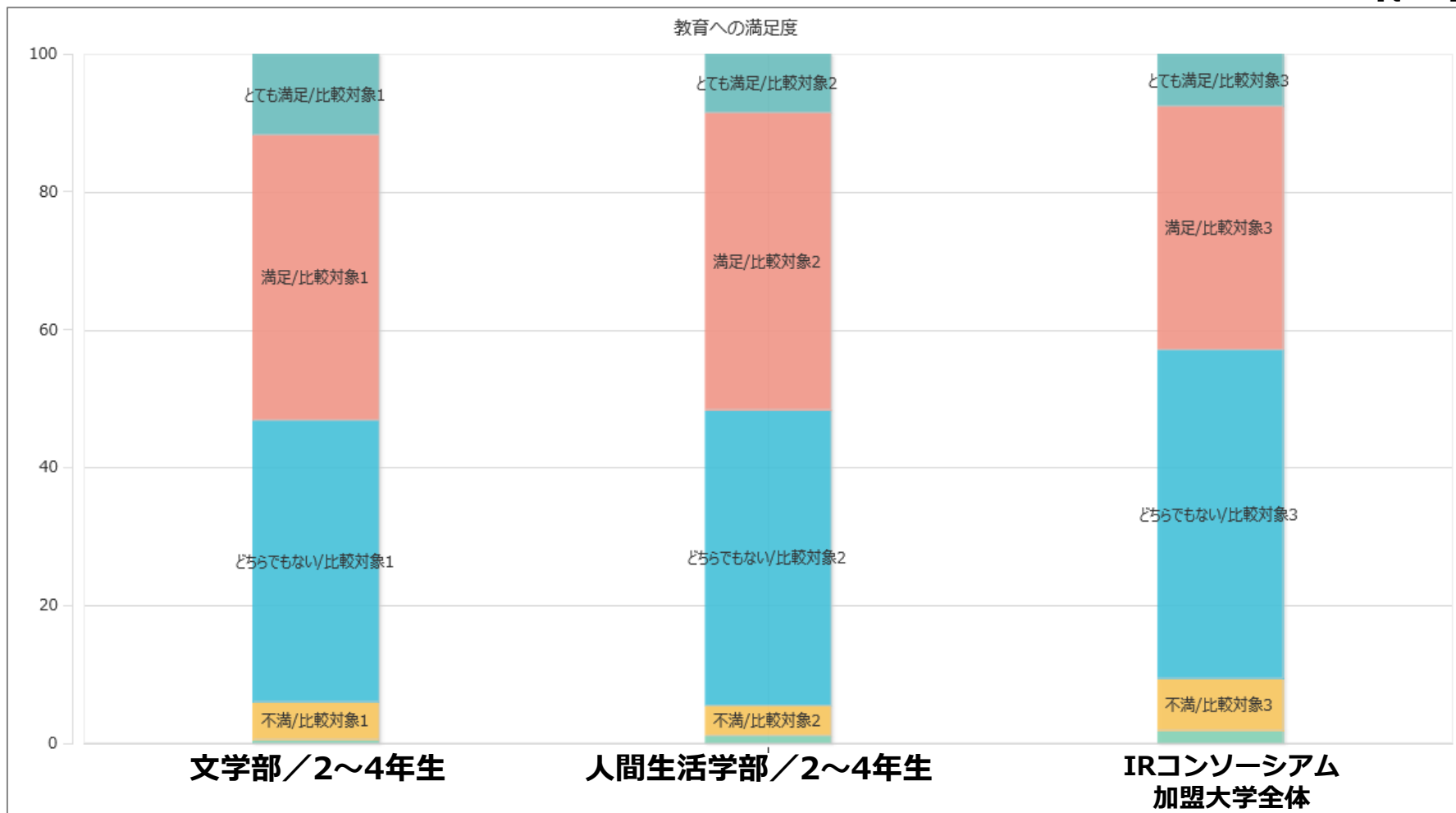


### 【コメント】

文学部は全国平均より満足度が高く、人間生活学部は全国平均並み。  
授業の質を上げるための授業内容の見直しやFD研修など行い、さらに満足度を高くすることが望まれる。

### 3-3. 教員と話をする機会

[Q12-F]

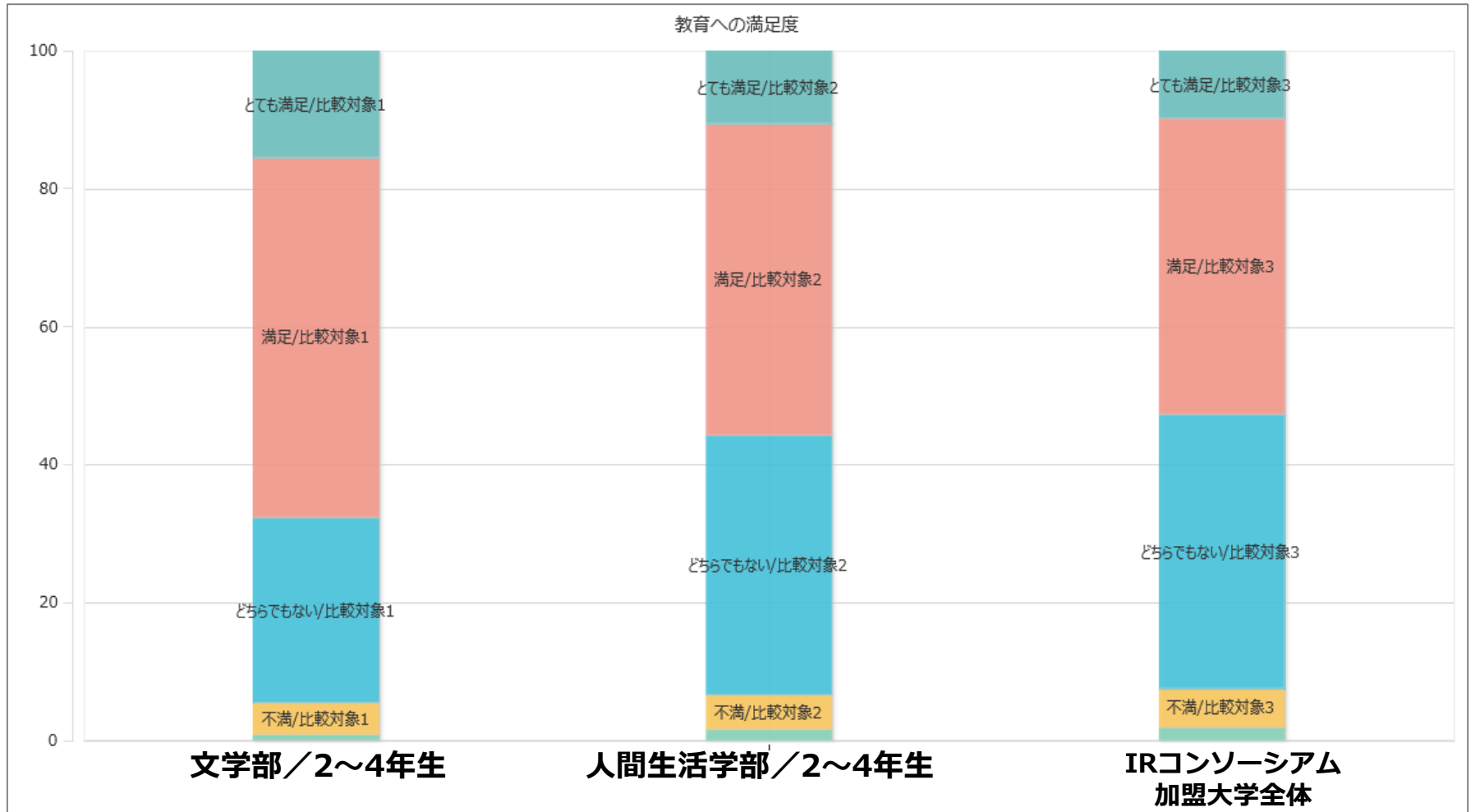


#### 【コメント】

文学部、人間生活学部ともに全国平均より満足度が高い。  
面倒見の良い大学というイメージ通りの結果であると思われる。

### 3-4. 多様な考え方を認め合う雰囲気

[Q12-J]



#### 【コメント】

文学部は全国平均より満足度が高く、人間生活学部は全国平均並み。  
ディプロマ・ポリシー（主体性・多様な人々と協働して学ぶ態度）達成に向けて、さらに満足度を高めると良いと思われる。



## 4. 設備・制度への満足度

**Q. あなたは本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。**

4-1. 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）

4-2. 実験室の設備や器具

4-3. コンピュータの施設や設備

4-4. インターネットの使いやすさ

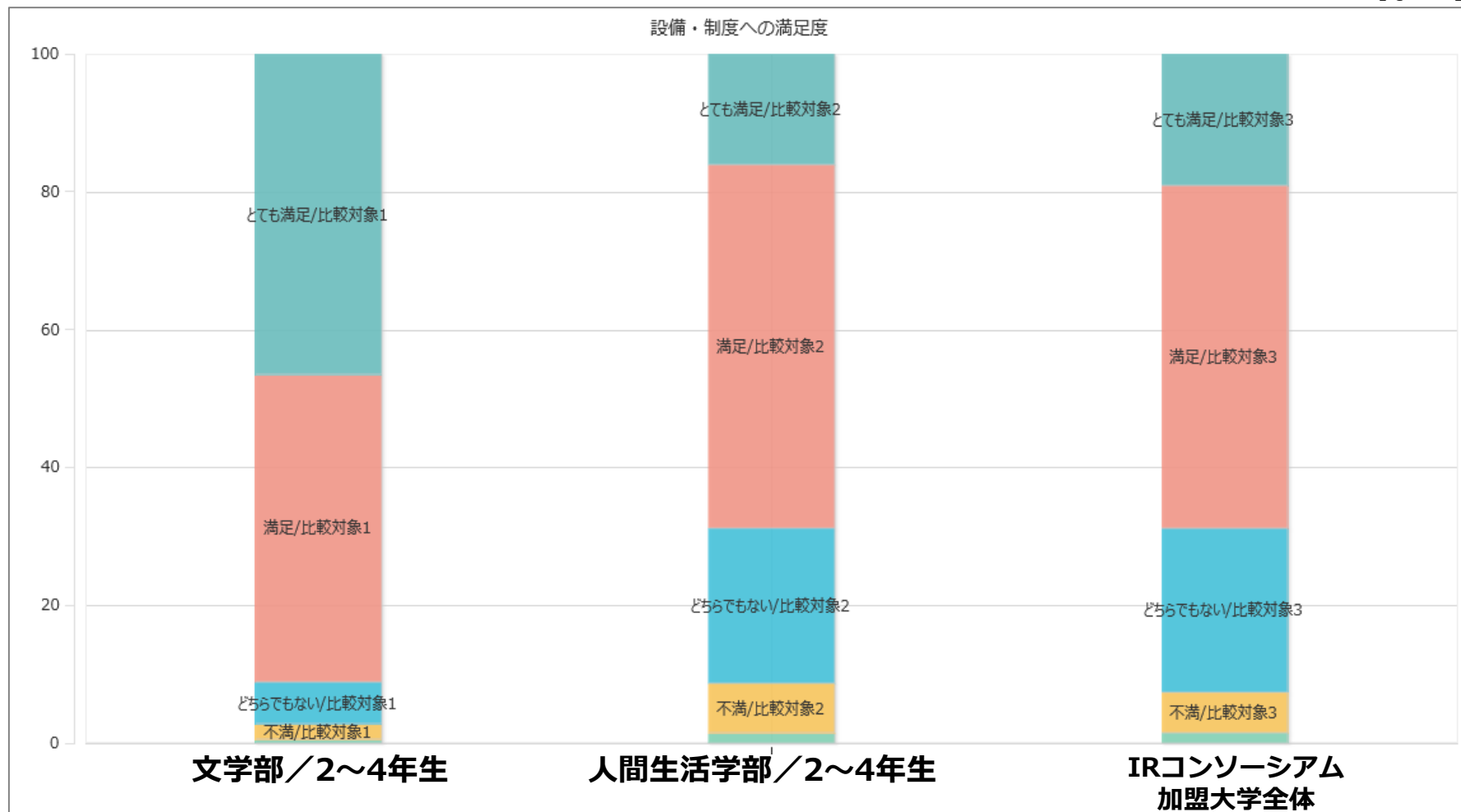
4-5. 奨学金などの学費援助の制度

4-6. 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）

4-7. キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）

## 4-1. 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）

[Q13-A]

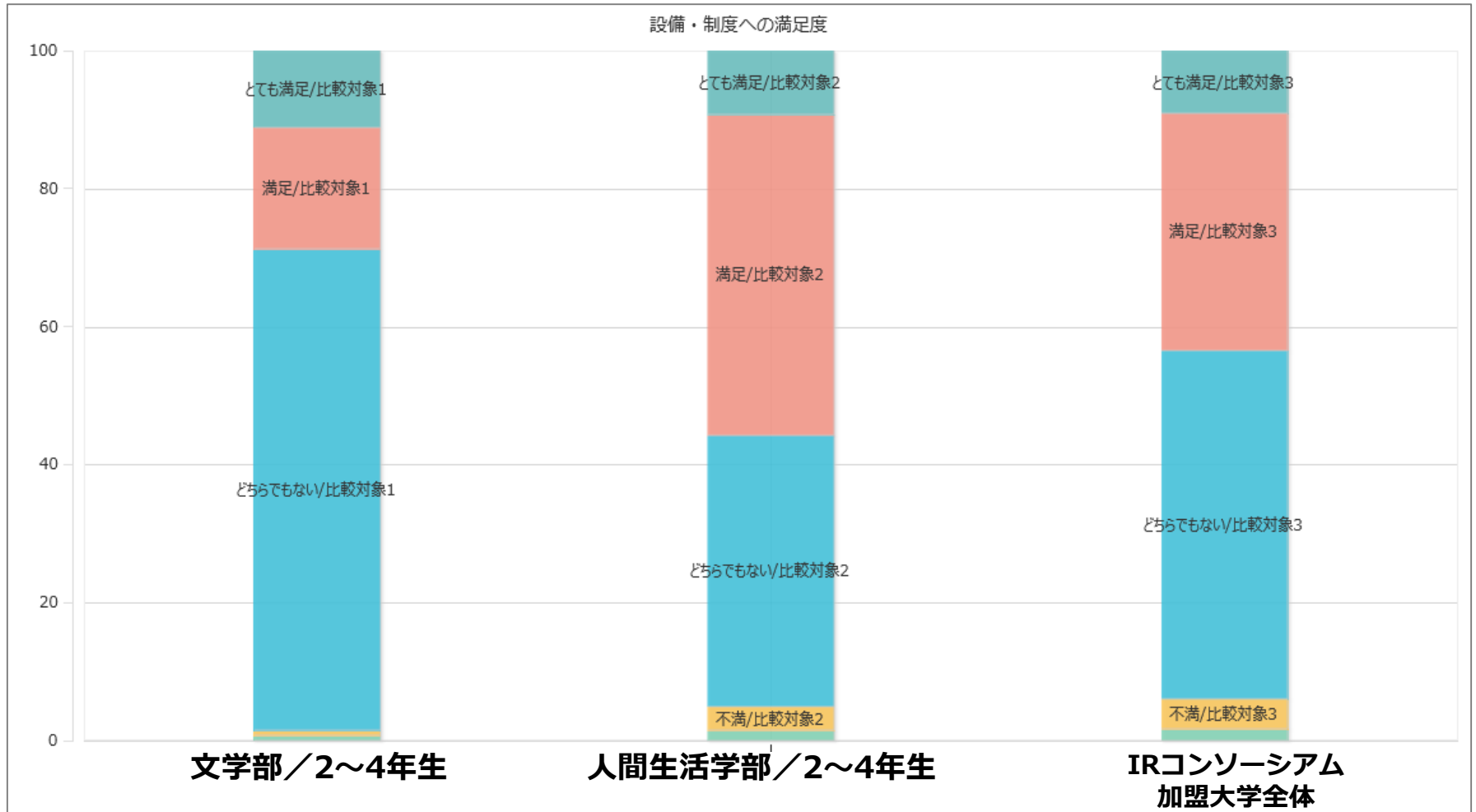


### 【コメント】

文学部の読書率の要因が北16条キャンパスの図書館設備に如実に示されている。人間生活学部も満足度は全国平均並みであるが、どちらでもないという回答があるので図書館を利用する機会を増やす対策が必要。また、不満は、北16条キャンパスと花川キャンパスの比較からなるものと思われる。

## 4-2. 実験室の設備や器具

[Q13-B]

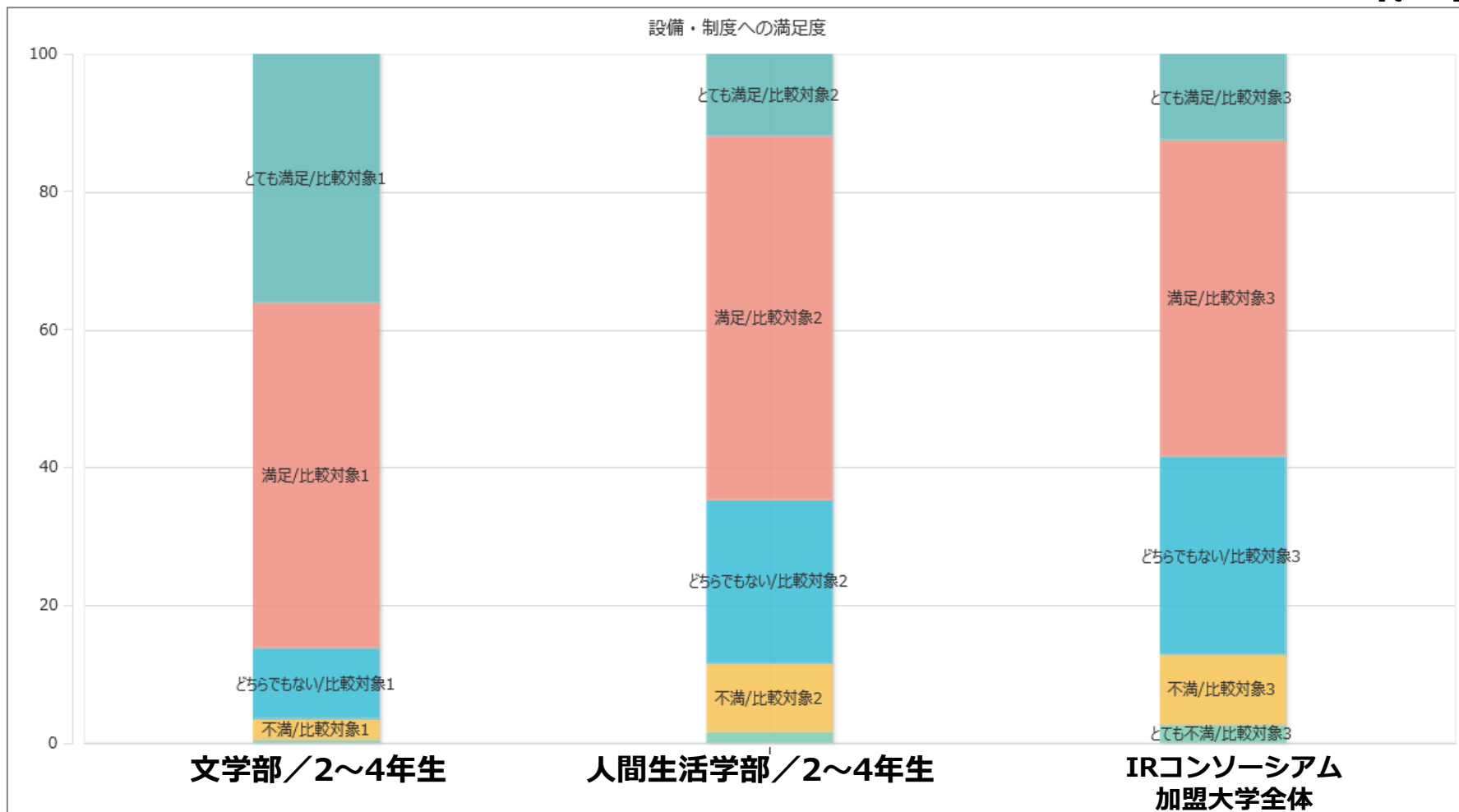


### 【コメント】

文学部では、実験・実習の設備は調理室のみで、利用したことのある学生は、ライフステージ栄養学受講者、大学祭参加者、サークル等に限られるが、満足度は高い。人間生活学部は約6割がなんらかの実験・実習の設備を利用しているが、満足度は高い。

## 4-3. コンピュータの施設や設備

[Q13-C]

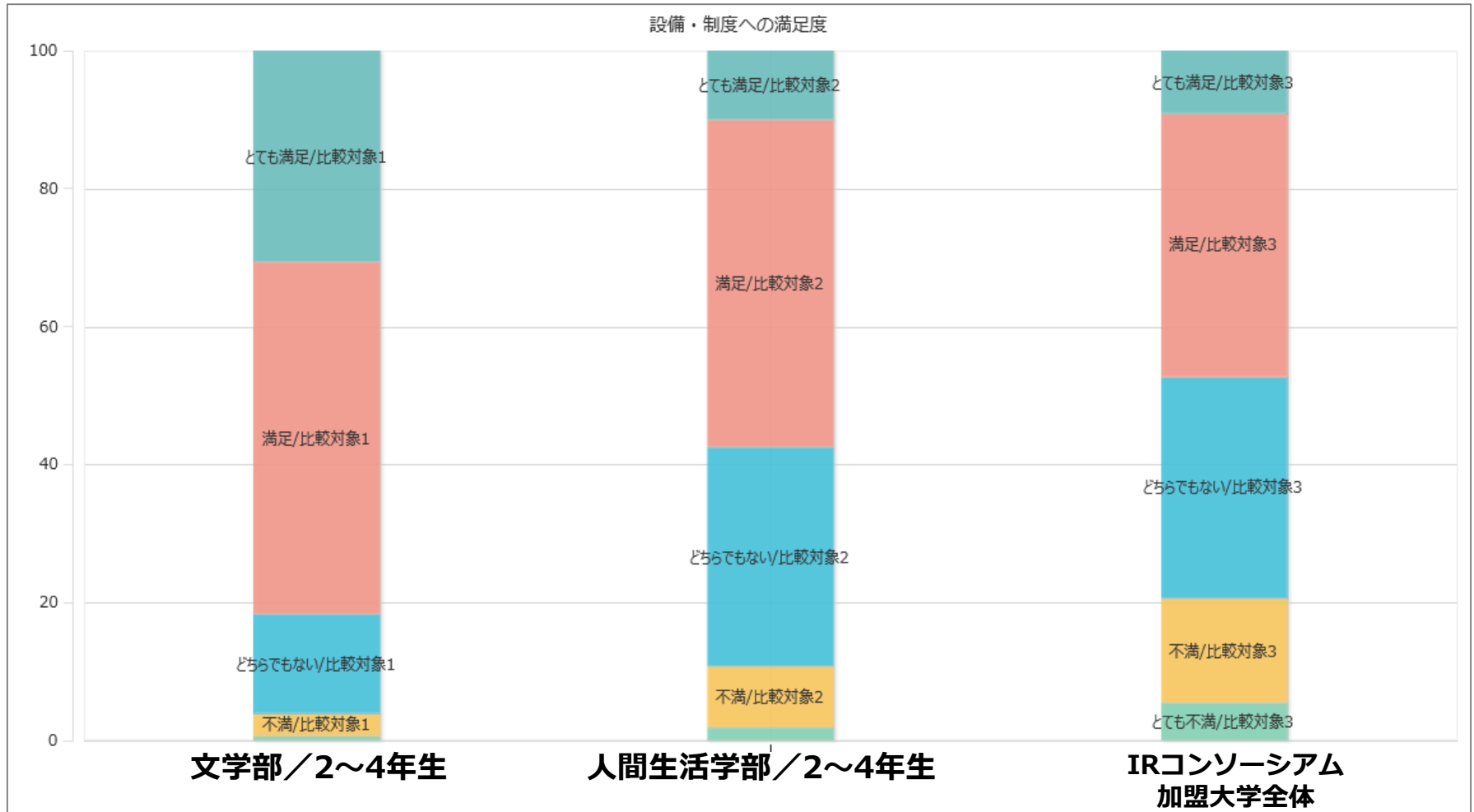


### 【コメント】

両学部とも全国平均より上回っており、特に文学部の満足度が高い。  
文学部と人間生活学部の満足度の差は、16条校舎は花川校舎に比べ常時利用できるパソコンの台数（貸出し含む）、常設エリアが共に多い点が必要と推測される。今後の課題として花川校舎でパソコンを利用しやすい場所に常設することと貸出機の増大と利用エリア拡大が挙げられる。

## 4-4. インターネットの使いやすさ

[Q13-E]

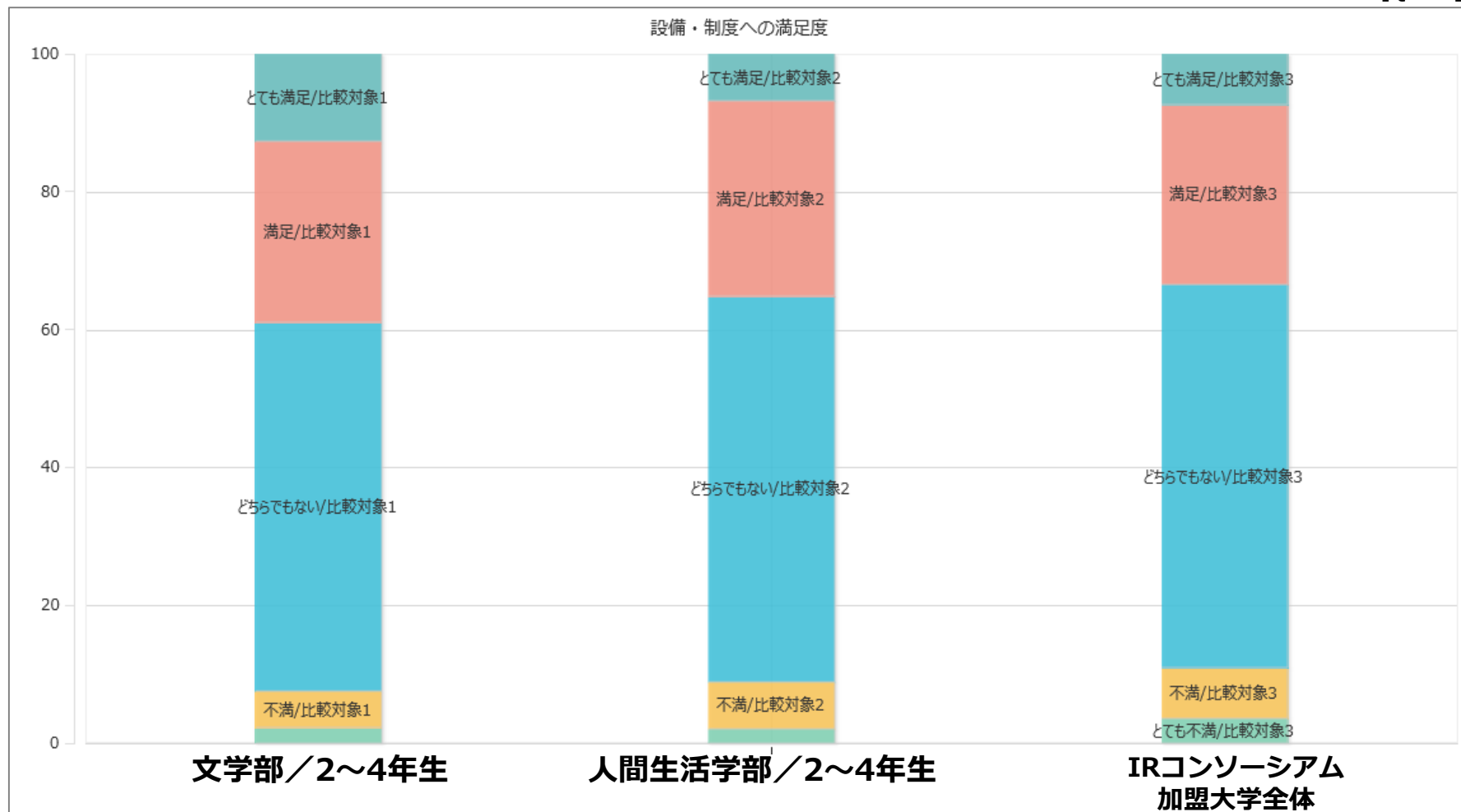


### 【コメント】

両学部とも全国平均より上回っているが、人間生活学部の満足度が文学部よりも低い。両校舎ともインターネット環境として回線速度、Wifi設備ともに同等であるにも関わらず、この差は前項目の「コンピュータの施設や設備」の満足度に起因していると推測される。

## 4-5. 奨学金などの学費援助の制度

[Q13-F]

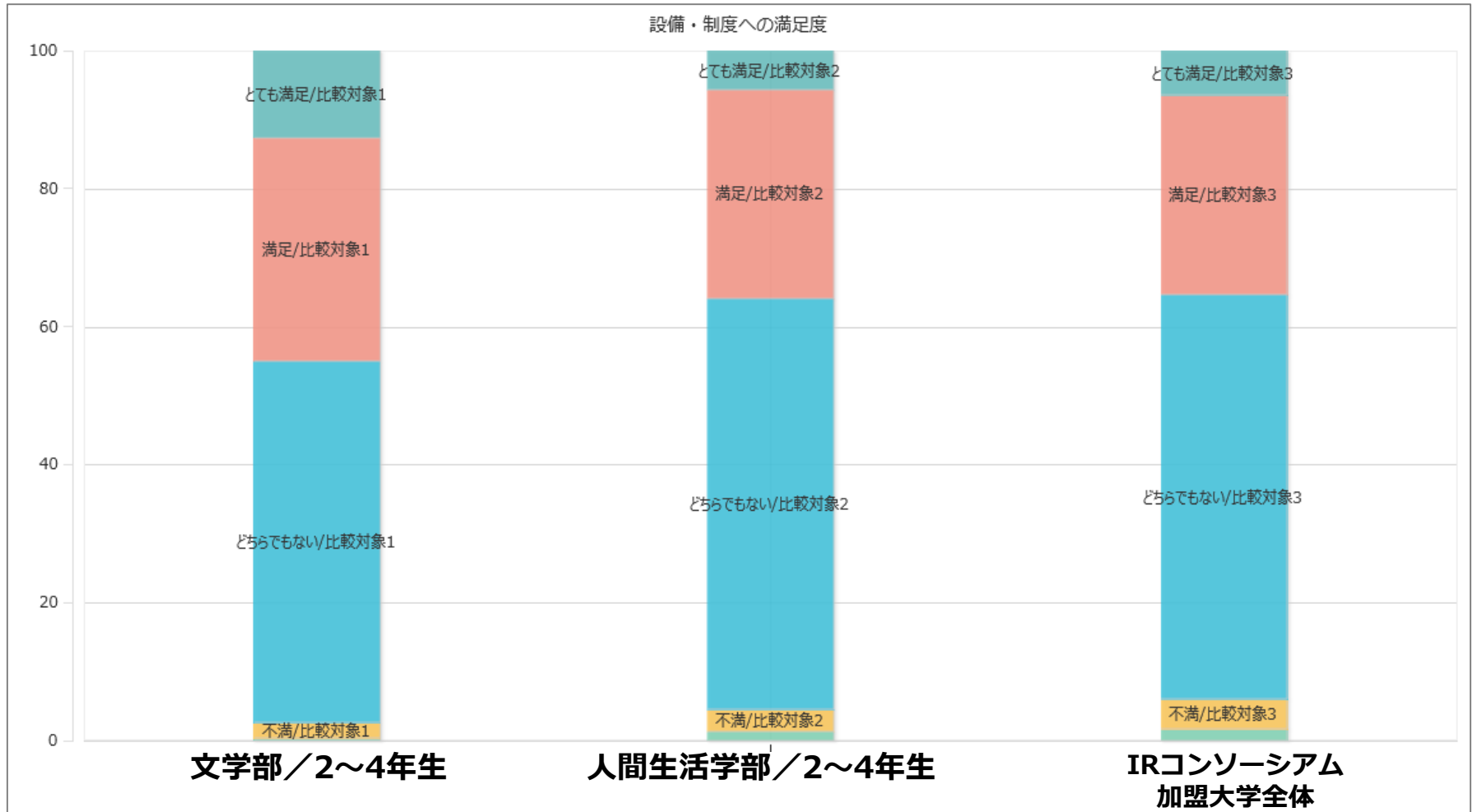


### 【コメント】

本学では貸与奨学金の制度があるが、全国の大学に比べると奨学金制度は手厚いとは言えないにも関わらず、比較的満足しているとの回答がある。

## 4-6. 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）

[Q13-G]

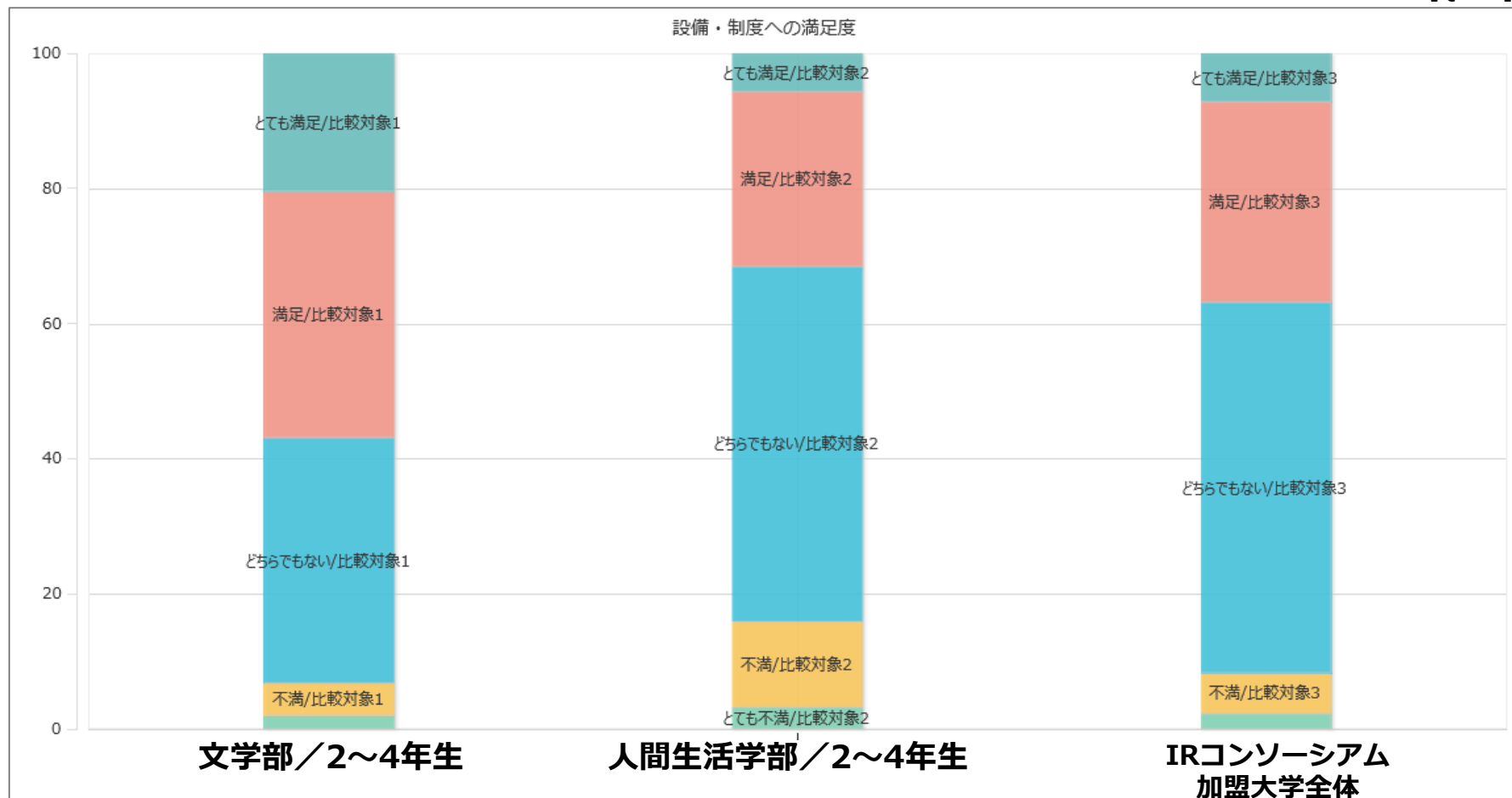


### 【コメント】

文学部は全国より満足度が高いが、利用率が高い点が気になる。人間生活学部は全国平均並み。どちらの学部についてもメンタルヘルスケアはより充実させる必要がある。

## 4-7. キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）

[Q13-I]



### 【コメント】

文学部はキャリア支援課（および外部相談員）による相談体制が中心。  
 人間生活学部も文学部同様の相談体制があるが、学部教育自体が就職に繋がる専門性を有するため、専門職志望者の就職相談には教員も関わる。  
 対応は個人差があるが、人間生活学部で専門職を目指さない場合や志望先の業種によっては、教員の協力が得づらい場合があること、専門職以外の会社説明会等の就職支援行事の多くは北16条校舎で開催されること等と相まって、人間生活学部生の満足度が低くなっているのかもしれない。  
 相談対応する全職員の意識やスキルの向上は常に課題である。



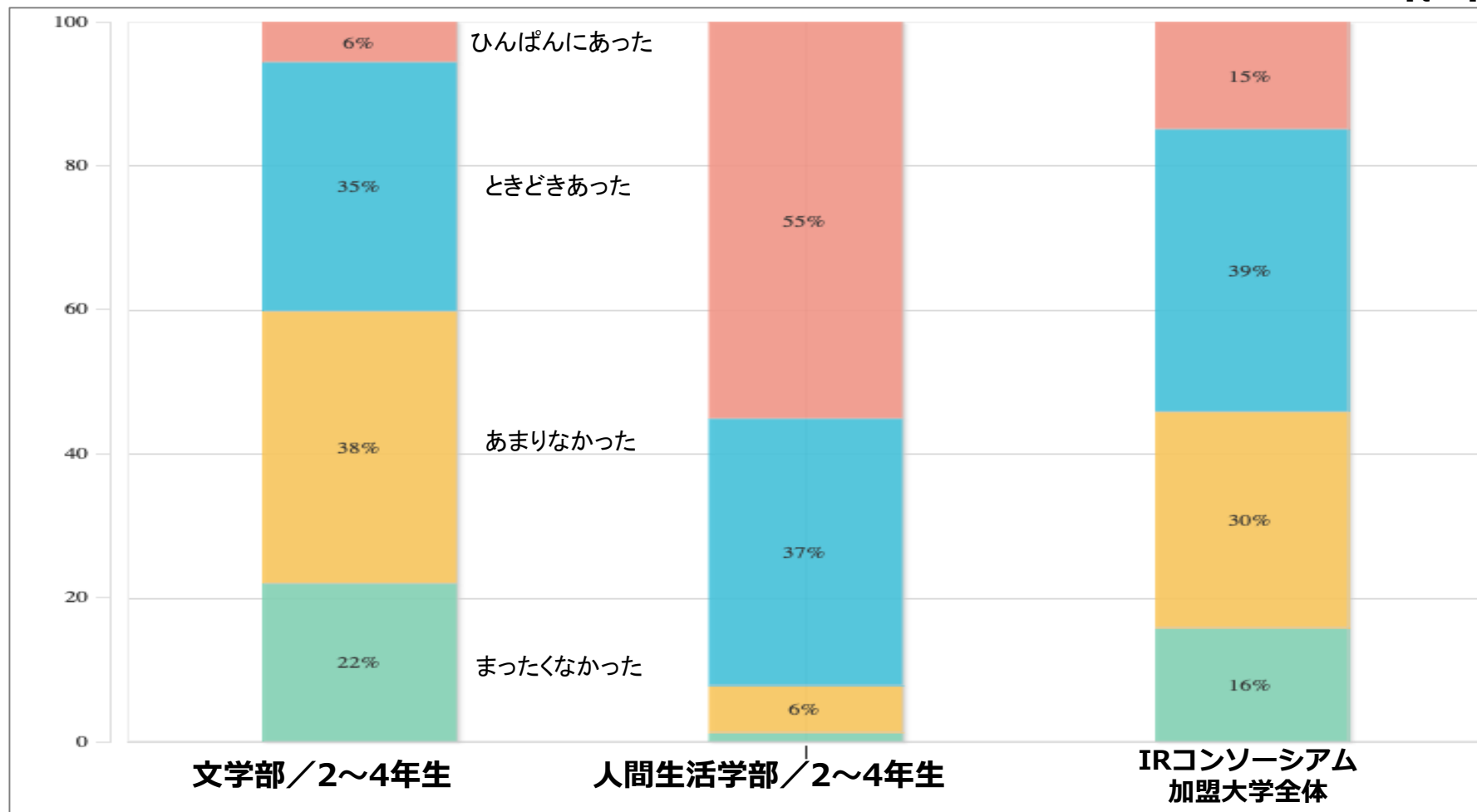
## 5. 授業での経験

Q. あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

- 5-1. 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ
- 5-2. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ
- 5-3. 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する
- 5-4. 授業の一環でボランティア活動をする
- 5-5. 学生自身が文献や資料を調べる
- 5-6. 定期的に小テストやレポートが課される
- 5-7. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する
- 5-8. 学生が自分の考えや研究を発表する
- 5-9. 授業中に学生同士が議論をする
- 5-10. 授業で検討するテーマを学生が設定する
- 5-11. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる
- 5-12. 取りたい授業を履修登録できなかった
- 5-13. 出席することが重視される
- 5-14. TAやSAなどの授業補助者から補助を受ける

## 5-1. 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ

[Q4-A]

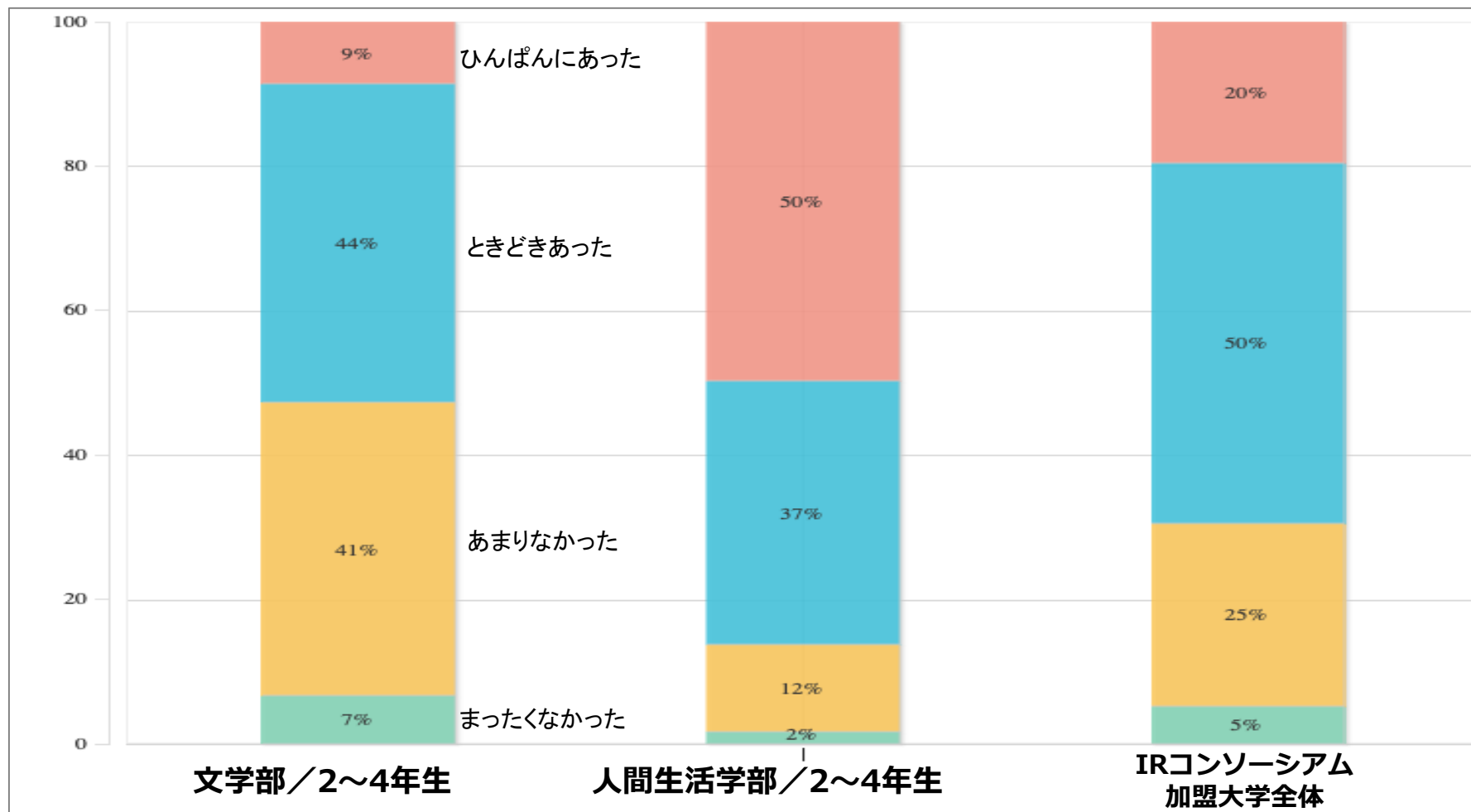


### 【コメント】

加盟大学全体の平均と比べ、人間生活学部の学生は頻繁にあると感じ、文学部の学生はほとんど感じていない。  
これは、カリキュラム通り。  
(有意差：文学部<人間生活学部)

## 5-2. 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ

[Q4-B]

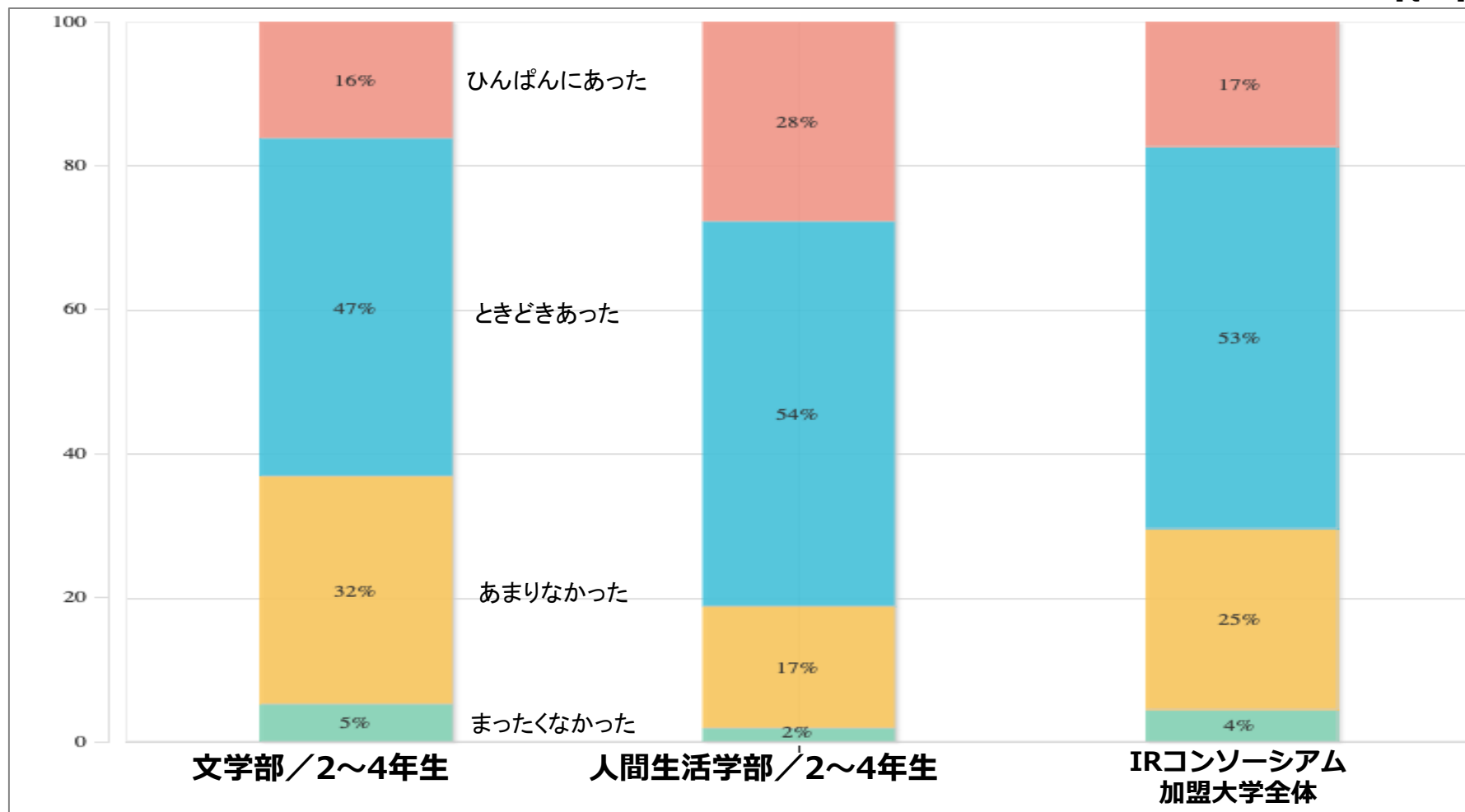


### 【コメント】

加盟大学全体の平均値より、人間生活学部では高く、資格・試験および社会での活動と密着した授業が多いが、文学部は少ない。  
(有意差：文学部<人間生活学部)

## 5-3. 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する

[Q4-C]

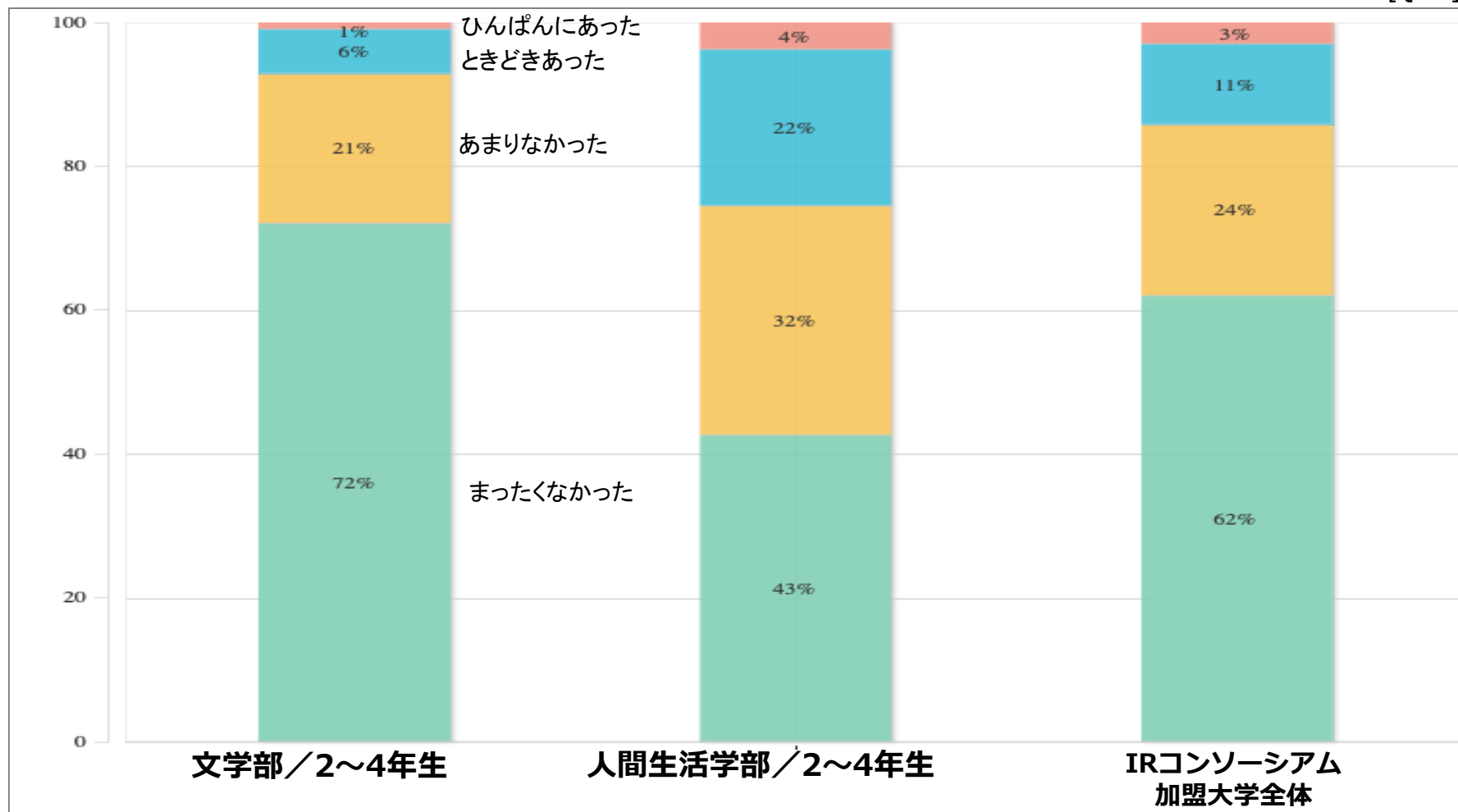


### 【コメント】

授業内容が、社会や日常と関わりの強い内容の授業を受けている人間生活学部の学生は多いと感じるが、文学部はそういった授業が少ないので教員も説明する機会が無い。また、人間生活学部にはいわゆる社会経験を経た教員の割合も高いことを反映していると思われる。（有意差：文学部<人間生活学部）

## 5-4. 授業の一環でボランティア活動をする

[Q4-D]

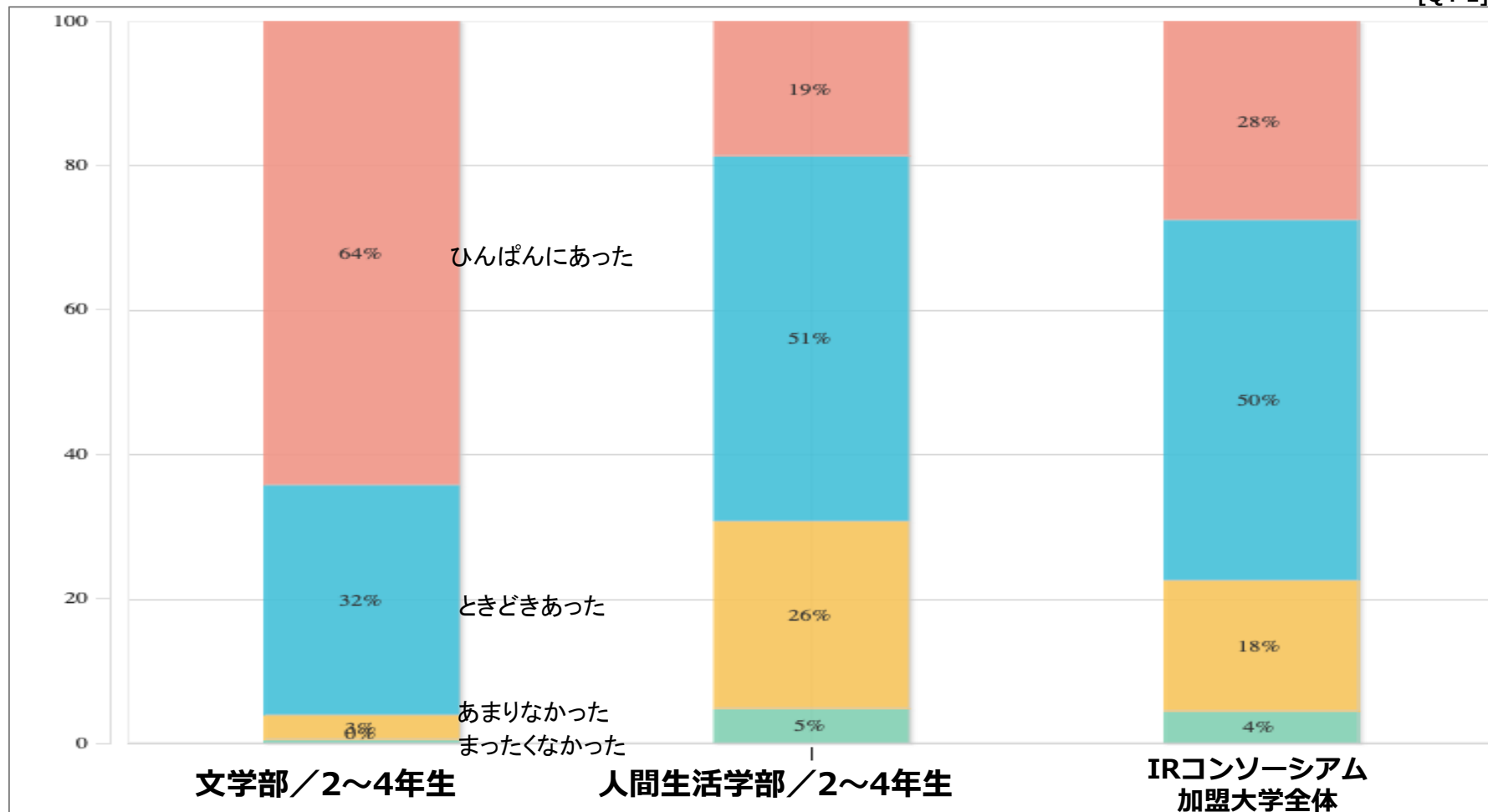


### 【コメント】

人間生活学部の授業でもボランティア活動についてはそれほど多くはないが、文学部の授業にはほとんど無いことが分かる。加盟大学全体としてもほとんど無いのが現状。  
(有意差：文学部<人間生活学部)

## 5-5. 学生自身が文献や資料を調べる

[Q4-E]

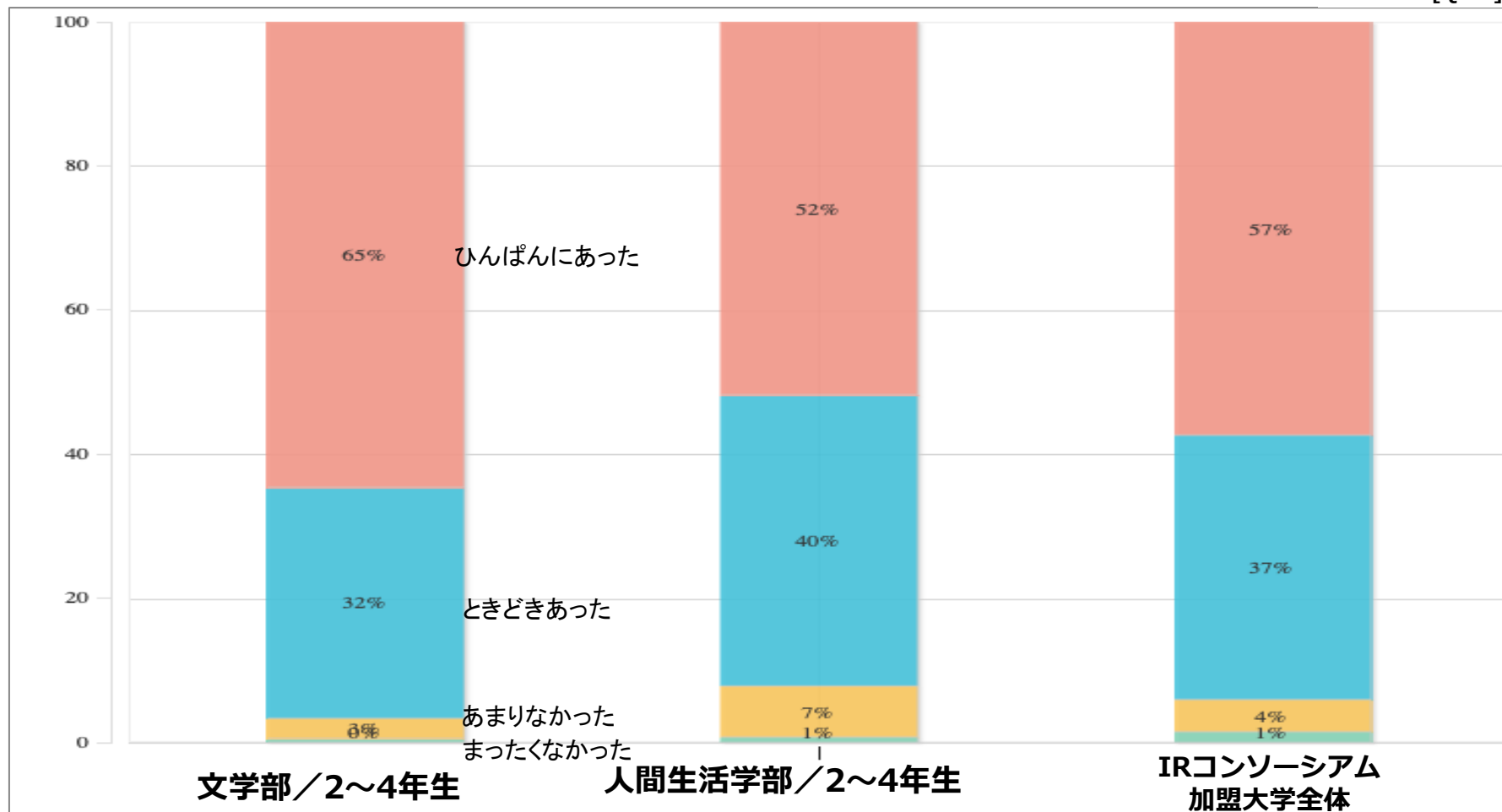


### 【コメント】

文献や資料を調べる機会は、加盟大学全体に比べても文学部が圧倒的に多い。一方人間生活学部では、授業で情報が完結してしまう？ためか文献、資料を調べない。このデータは、「時間の使い方（週）」と強くリンクしており、両学部学生の時間の使い方の違いが浮き彫りとなっている。（有意差：文学部＞人間生活学部）

## 5-6. 定期的に小テストやレポートが課される

[Q4-F]

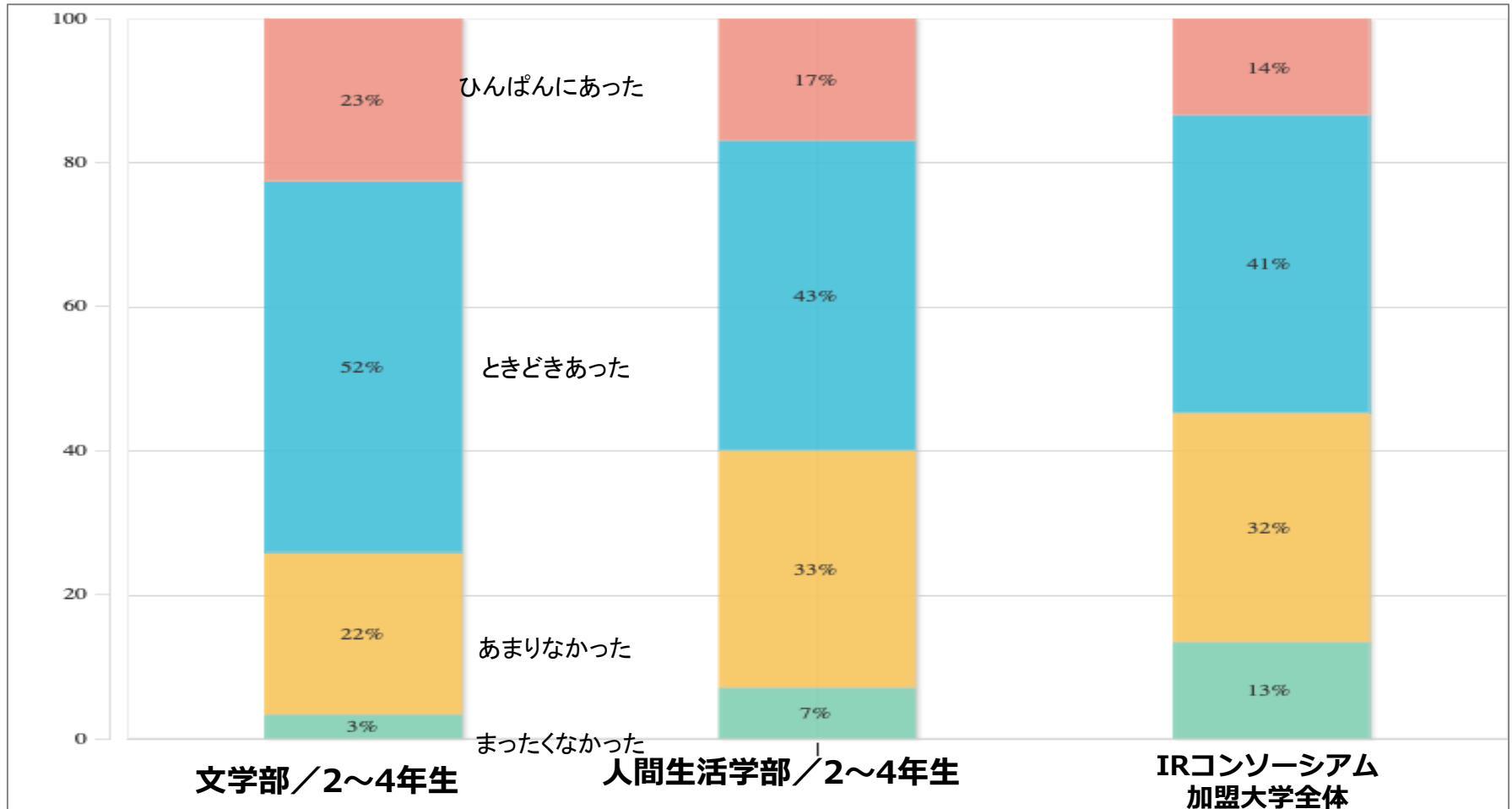


### 【コメント】

小テストやレポートは文学部の方が人間生活学部より多く、加盟大学全体平均よりも高い傾向となっている。  
しかし、有意に高いとまではいえない。  
(有意差：文学部≧人間生活学部)

## 5-7. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する

[Q4-G]



### 【コメント】

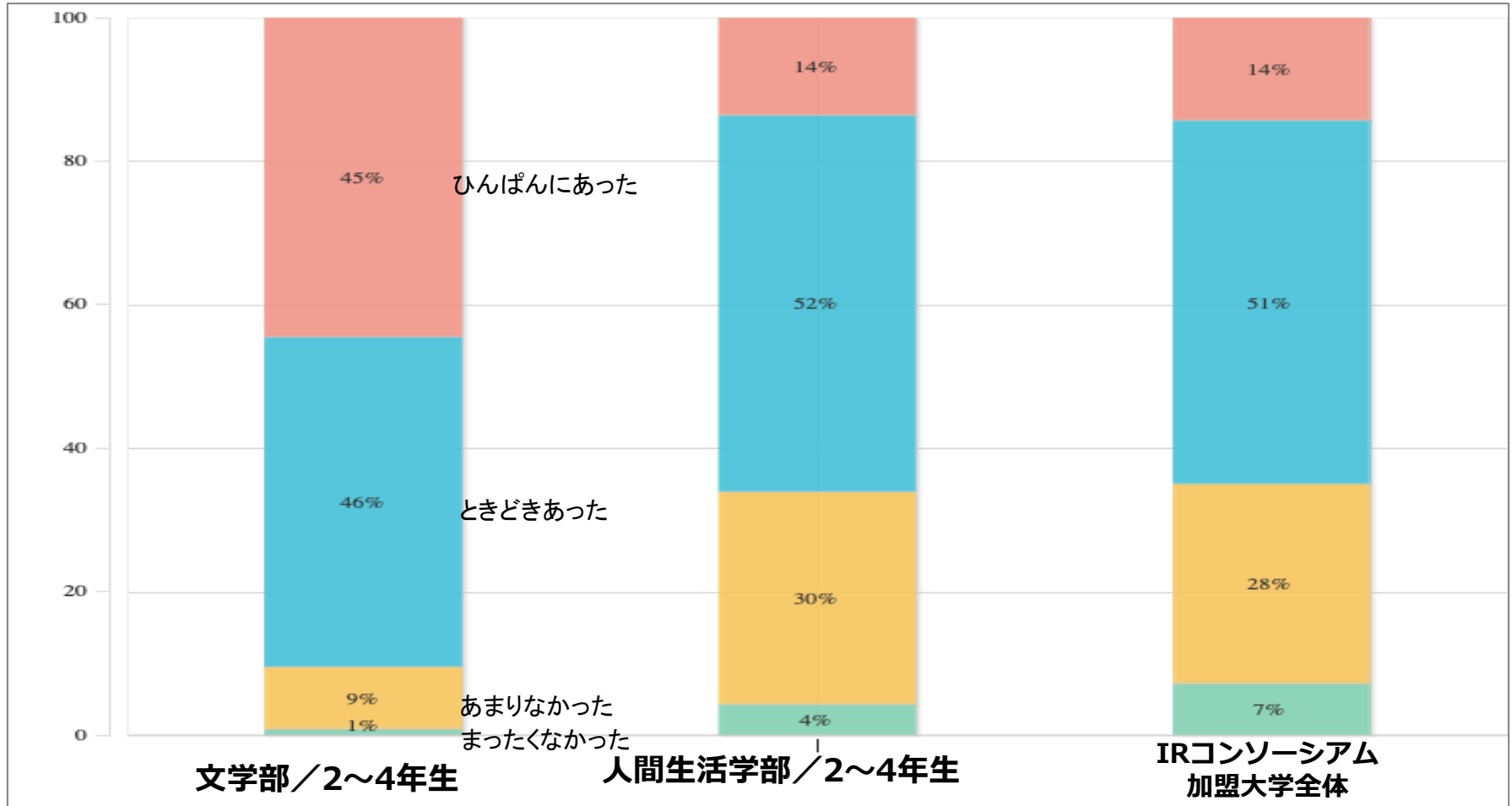
文学部の教員は提出物に添削やコメントを付けて返すが、人間生活学部の先生はやや少ない。それでも、加盟大学全体よりは高くなっており、藤の先生は学生に丁寧に接しているようだ。

(有意差：文学部≧人間生活学部)



## 5-8. 学生が自分の考えや研究を発表する

[Q4-H]

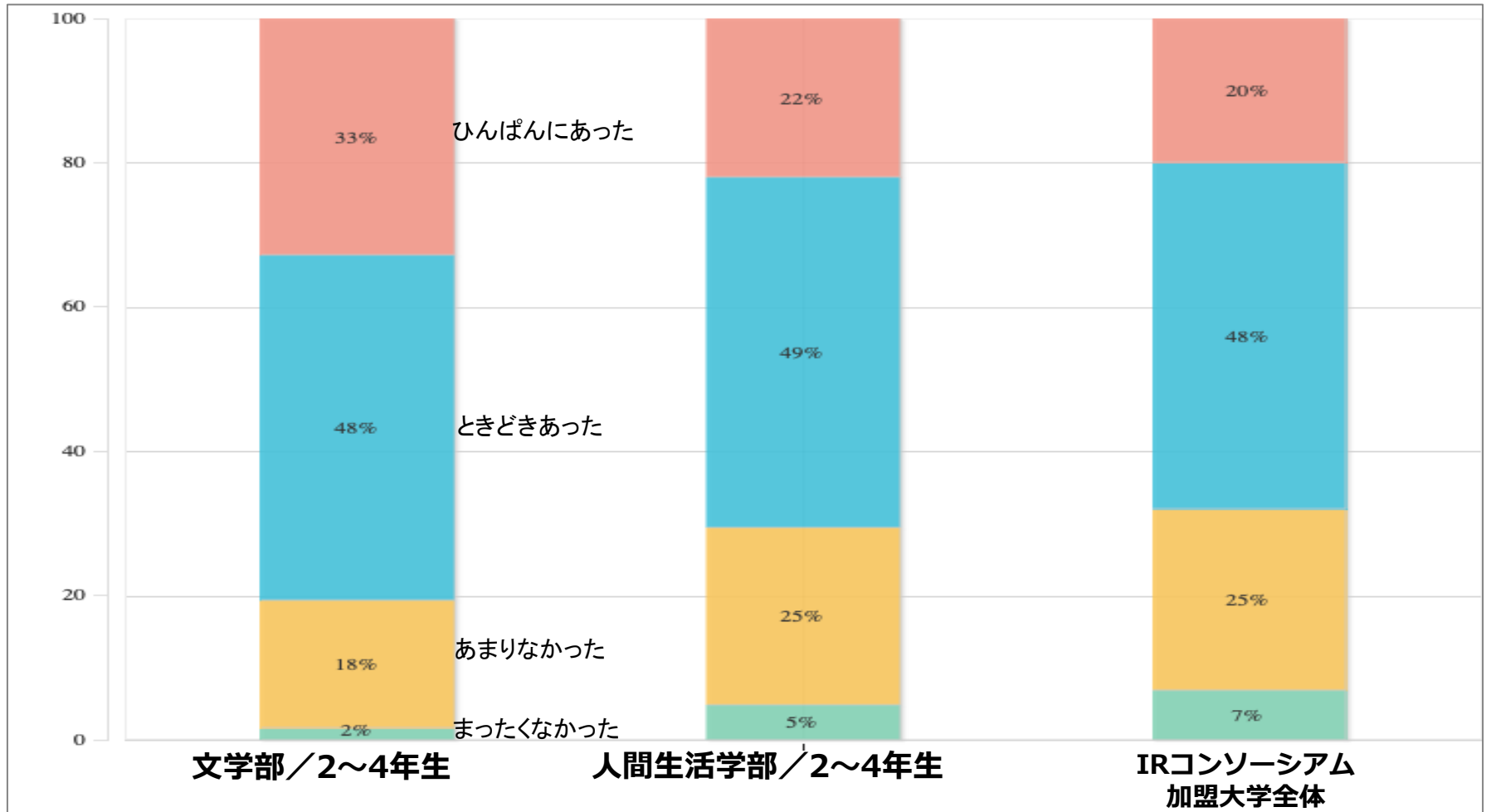


### 【コメント】

人間生活学部の学生は、加盟大学全体と同じレベルであるが、文学部の学生はかなり頻繁に自分の考えや研究を発表する機会が有る。  
(有意差：文学部＞人間生活学部)

## 5-9. 授業中に学生同士が議論をする

[Q4-I]



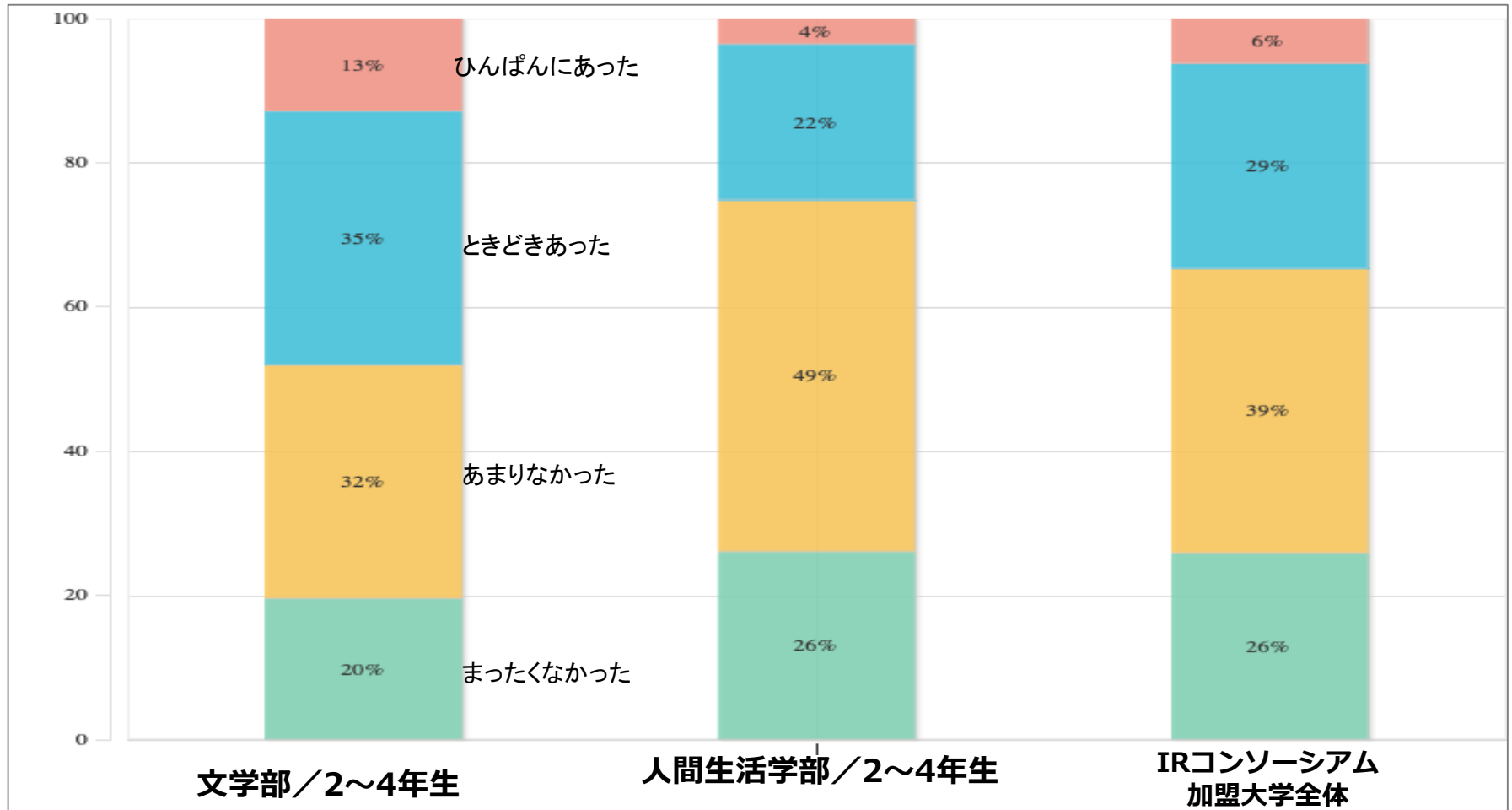
### 【コメント】

人間生活学部の学生は、加盟大学全体と同じレベルであるが、文学部の学生は学生同士が議論をする機会がより頻繁にありそうだが、有意差はついていない。

(有意差：文学部 > 人間生活学部)

## 5-10. 授業で検討するテーマを学生が設定する

[Q4-J]



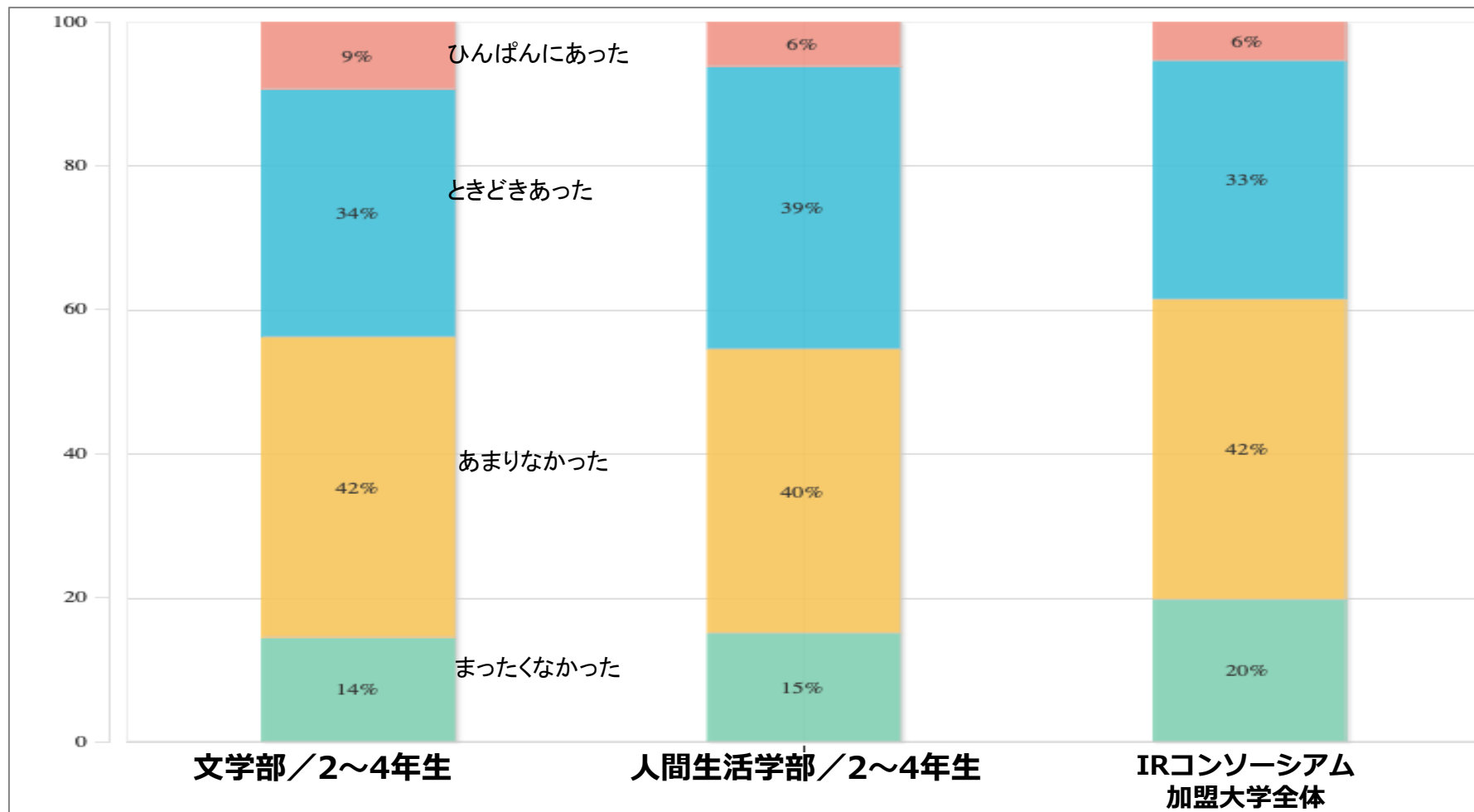
### 【コメント】

人間生活学部の授業のテーマはほぼ固定されて学生が設定することはないが、文学部の授業は加盟大学全体に比べてもテーマに柔軟性があるようだ。

(有意差：文学部≧人間生活学部)

## 5-11. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる

[Q4-K]

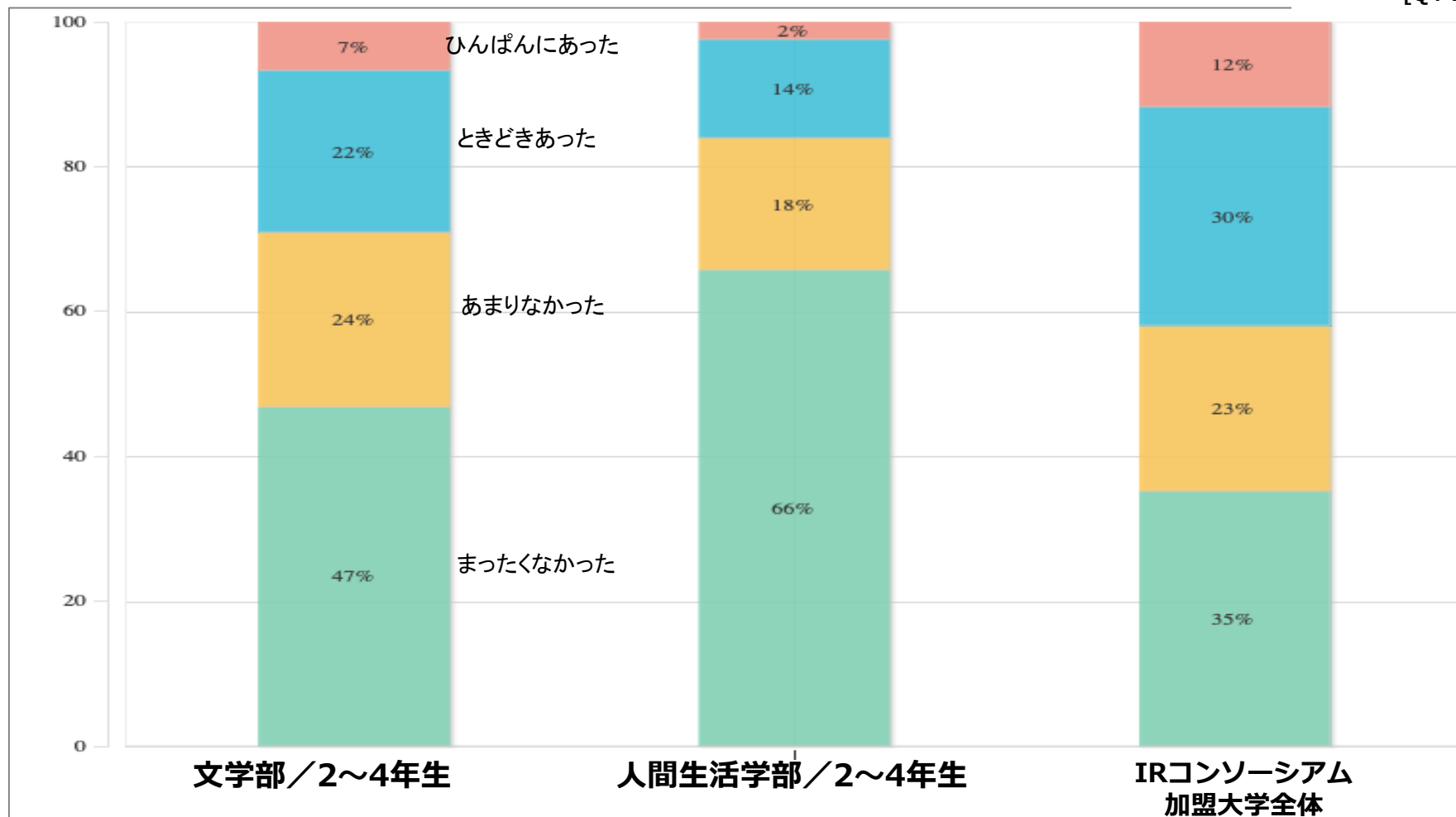


### 【コメント】

加盟大学全体に比べ、本学の授業は学生の意見がやや多く取り入れられているようだが、学部間での有意差はない。

## 5-12. 取りたい授業を履修登録できなかった

[Q4-L]

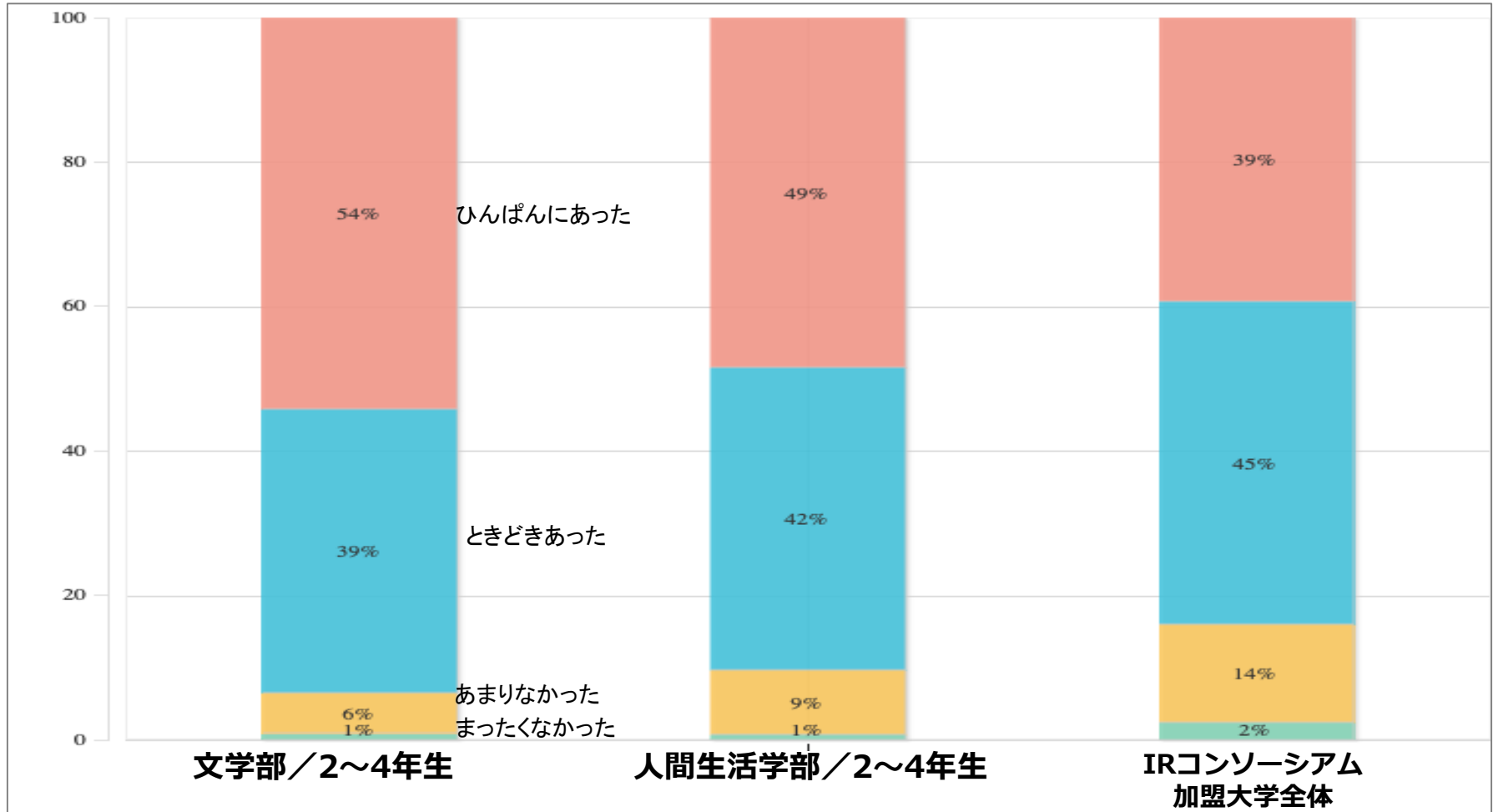


### 【コメント】

加盟大学全体に比べ、本学の学生はとりたい授業を履修登録できており、特に人間生活学部の学生は必修科目が多いためかその傾向が強く文学部との有意差もある。

## 5-13. 出席することが重視される

[Q4-M]

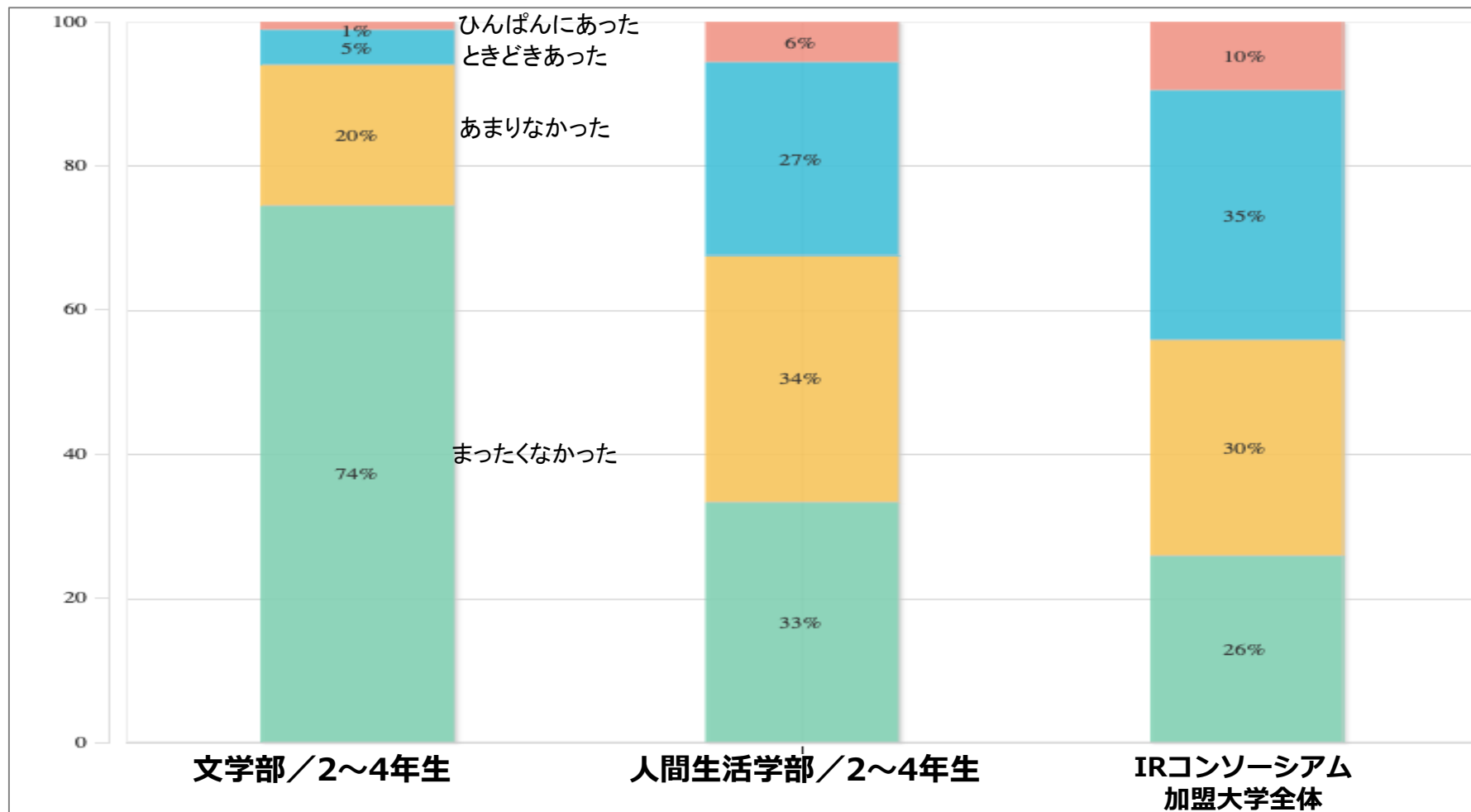


### 【コメント】

両学部の学生とも加盟大学全体平均に比べ出席することが重視されていると感じている。しかし、学部間の有意差はない。

## 5-14. TAやSAなどの授業補助者から補助を受ける

[Q4-N]



### 【コメント】

TAやSA等の利用は、加盟大学に比べ本学はかなり遅れている。人間生活学部では、大学院生によるTAを導入しているためか文学部よりも有意に高いが、文学部でもFSA制度があるが、一般への周知度が低いのかも知れない。

# 6. 能力の変化

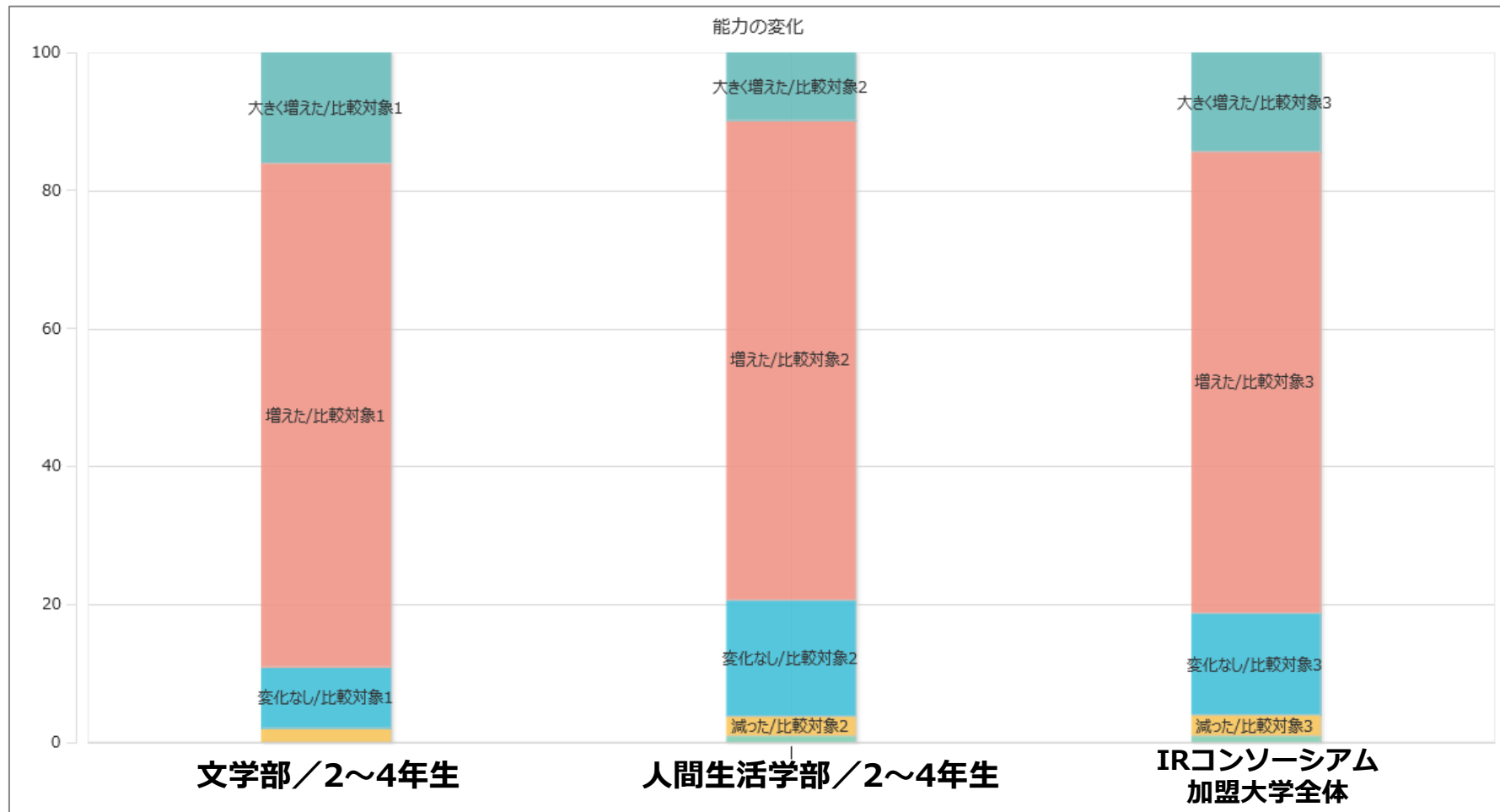
Q. 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

- 6-1. 一般的な教養
- 6-2. 批判的に考える能力
- 6-3. 異文化の人々に関する知識
- 6-4. 他の人と協力して物事を遂行する能力
- 6-5. 異文化の人々と協力する能力
- 6-6. 文章表現の能力
- 6-7. 外国語の運用能力
- 6-8. プレゼンテーションの能力
- 6-9. 数理的な能力
- 6-10. グローバルな問題の理解



# 6-1. 一般的な教養

[Q7-A]

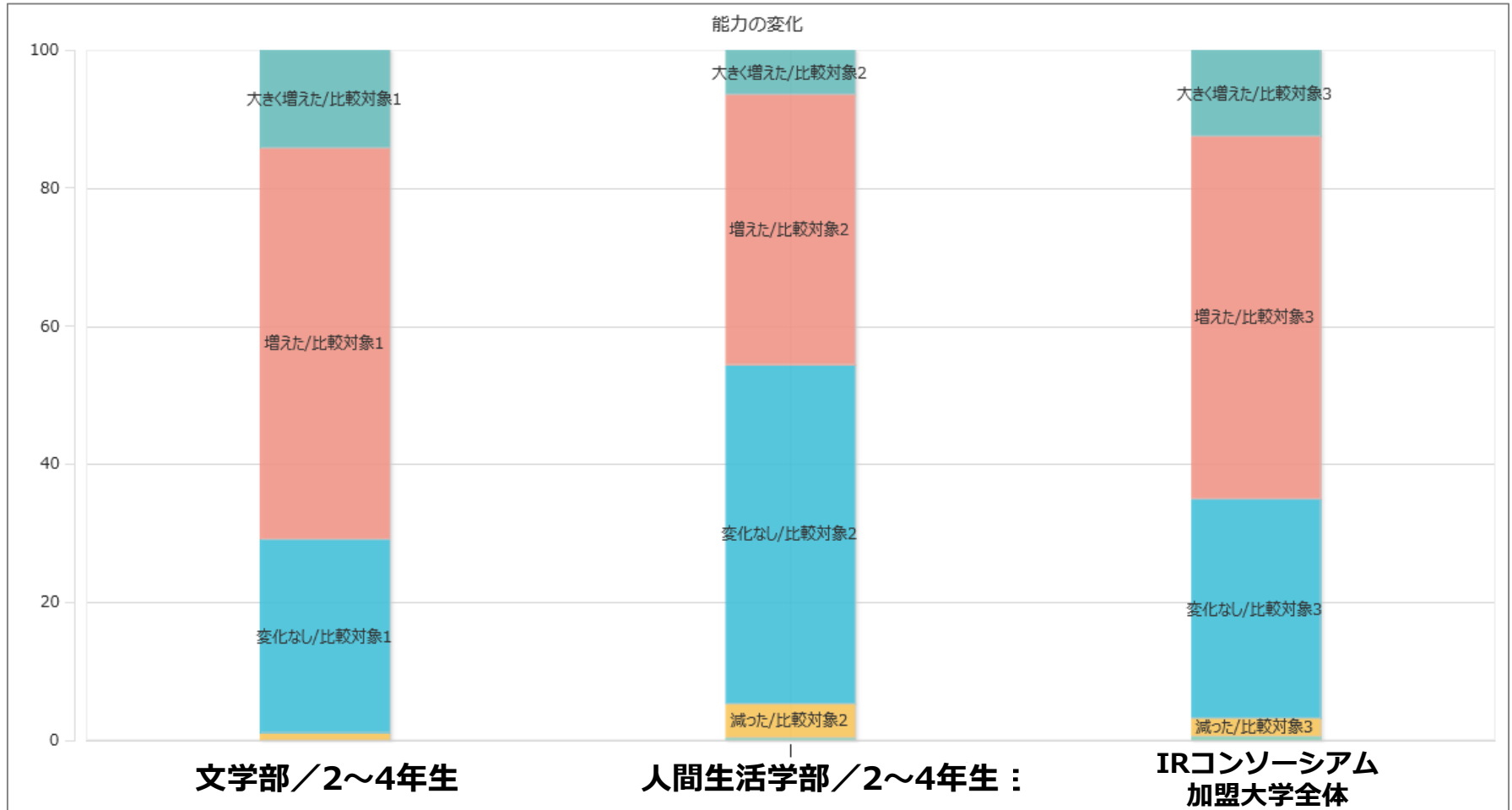


## 【コメント】

文学部が全国よりやや高め、人間生活学部は全大学並みのようである。  
文学部ではこの他に、専門分野や学科の知識に関する項目でも増えたとの回答が多かった。  
(有意差：文学部>人間生活学部)

## 6-2. 批判的に考える能力

[Q7-D]

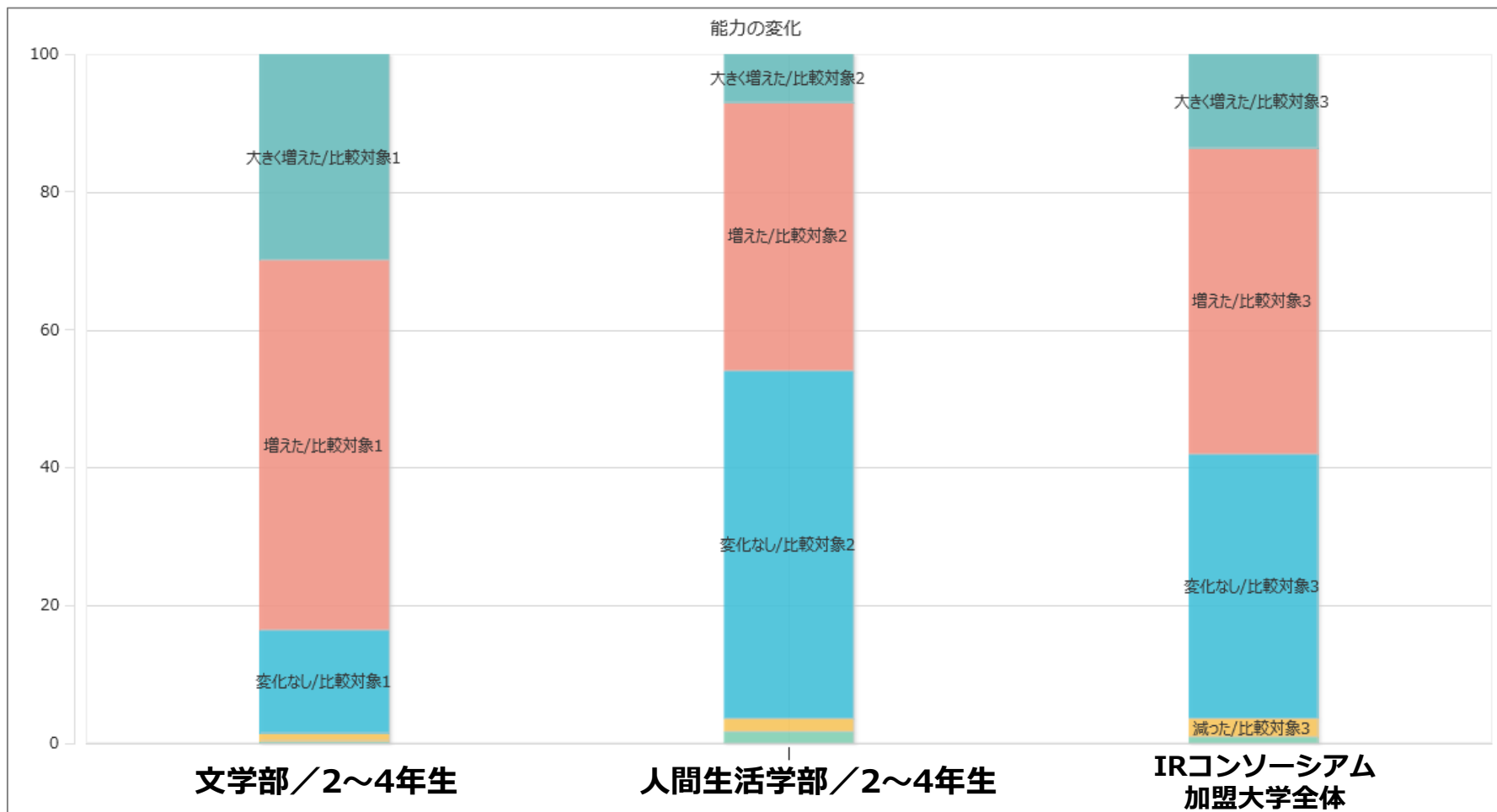


### 【コメント】

文学部で全国並み、人間生活学部で全大学よりも低めだった。

## 6-3. 異文化の人々に関する知識

[Q7-E]

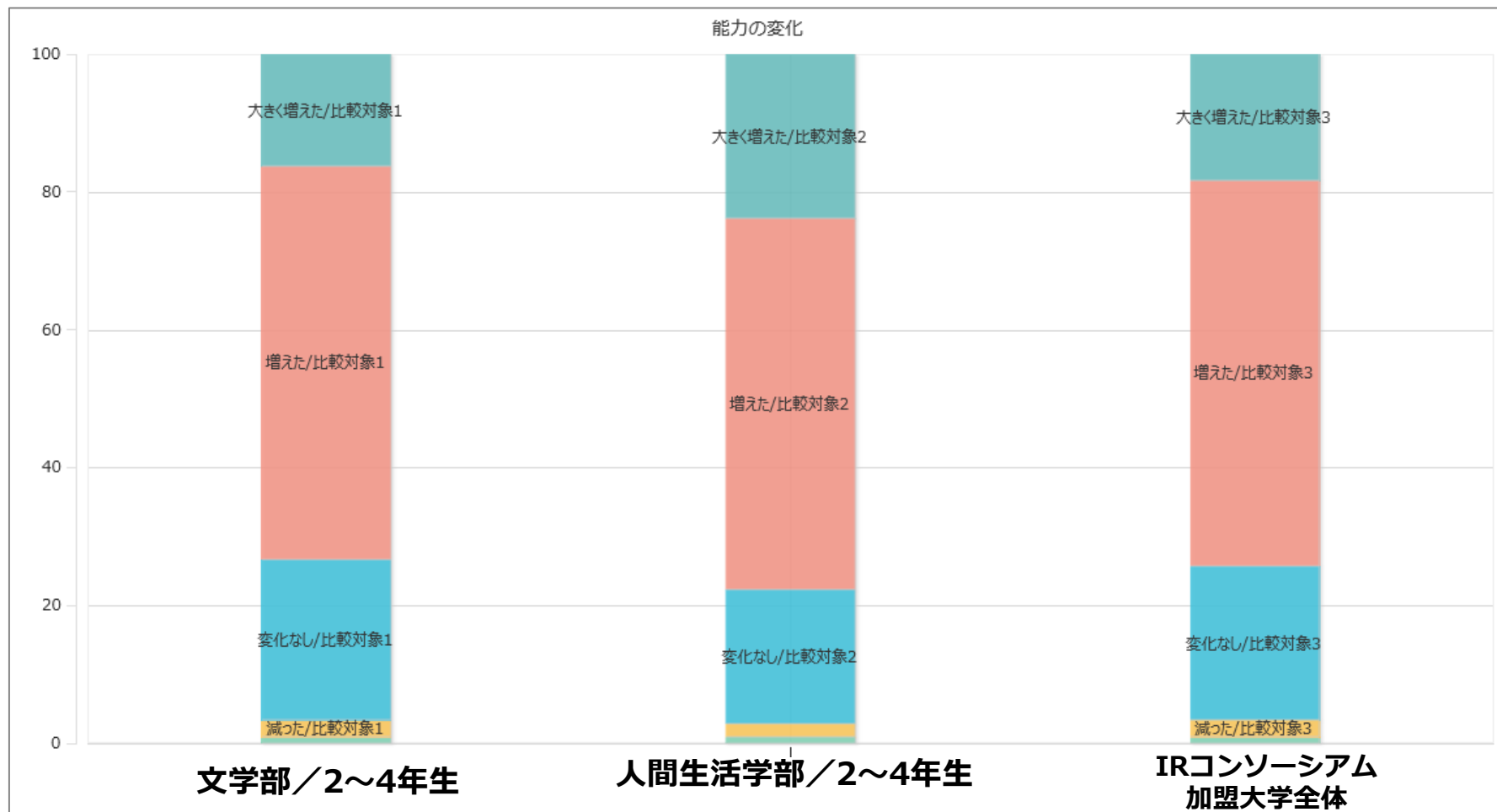


### 【コメント】

文学部が全大学より高めで人間生活学部が低めだった。  
(有意差：文学部>人間生活学部)

## 6-4. 他の人と協力して物事を遂行する能力

[Q7-H]

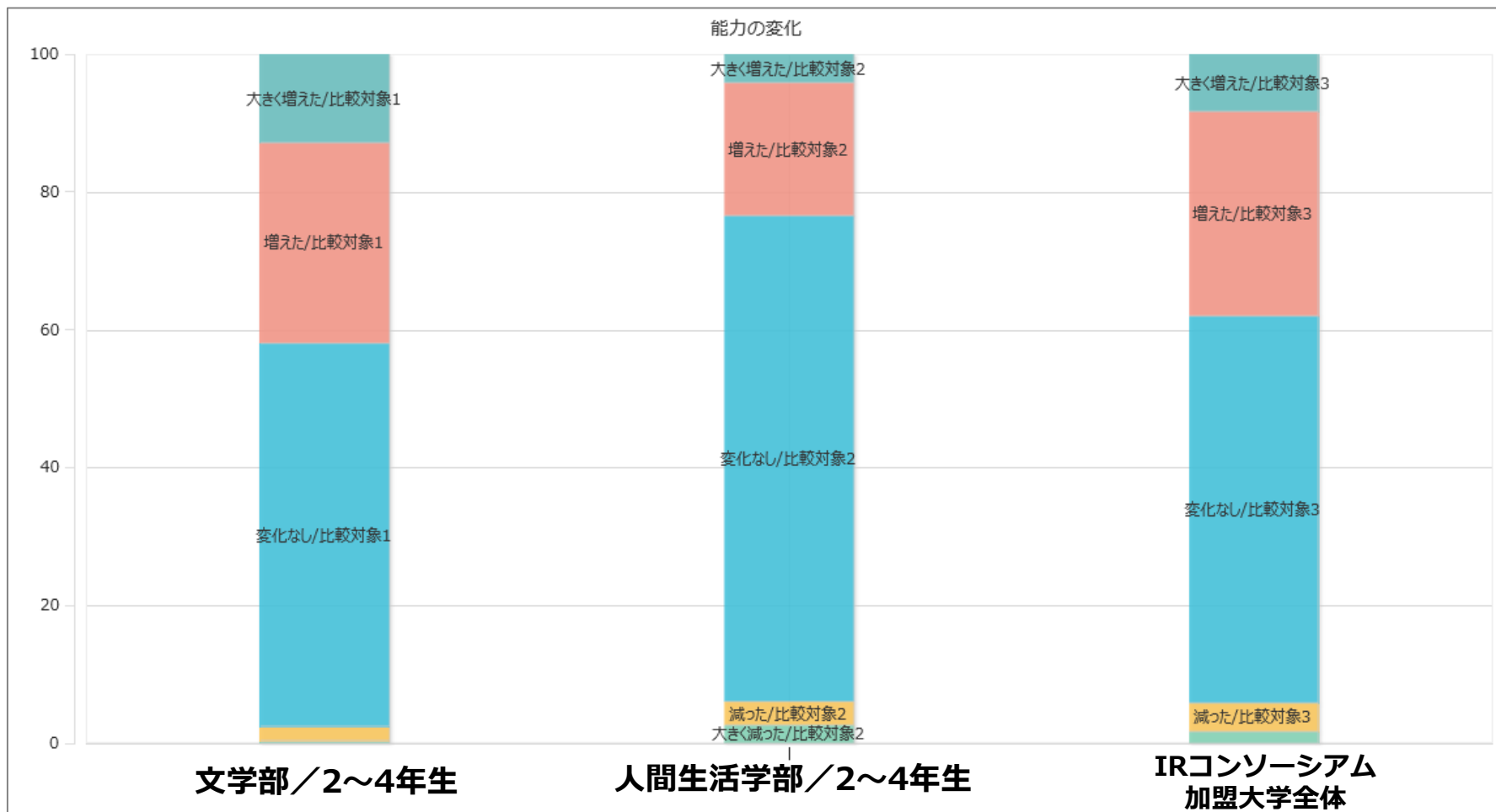


### 【コメント】

文学部人間生活学部どちらも全大学とさほど変わらないが、学部間では文学部の方が人間生活学部よりも有意に低かった。人間生活学部では実習などが多く行われていることを反映した回答傾向といえる。  
(有意差：文学部<人間生活学部)

## 6-5. 異文化の人々と協力する能力

[Q7-I]

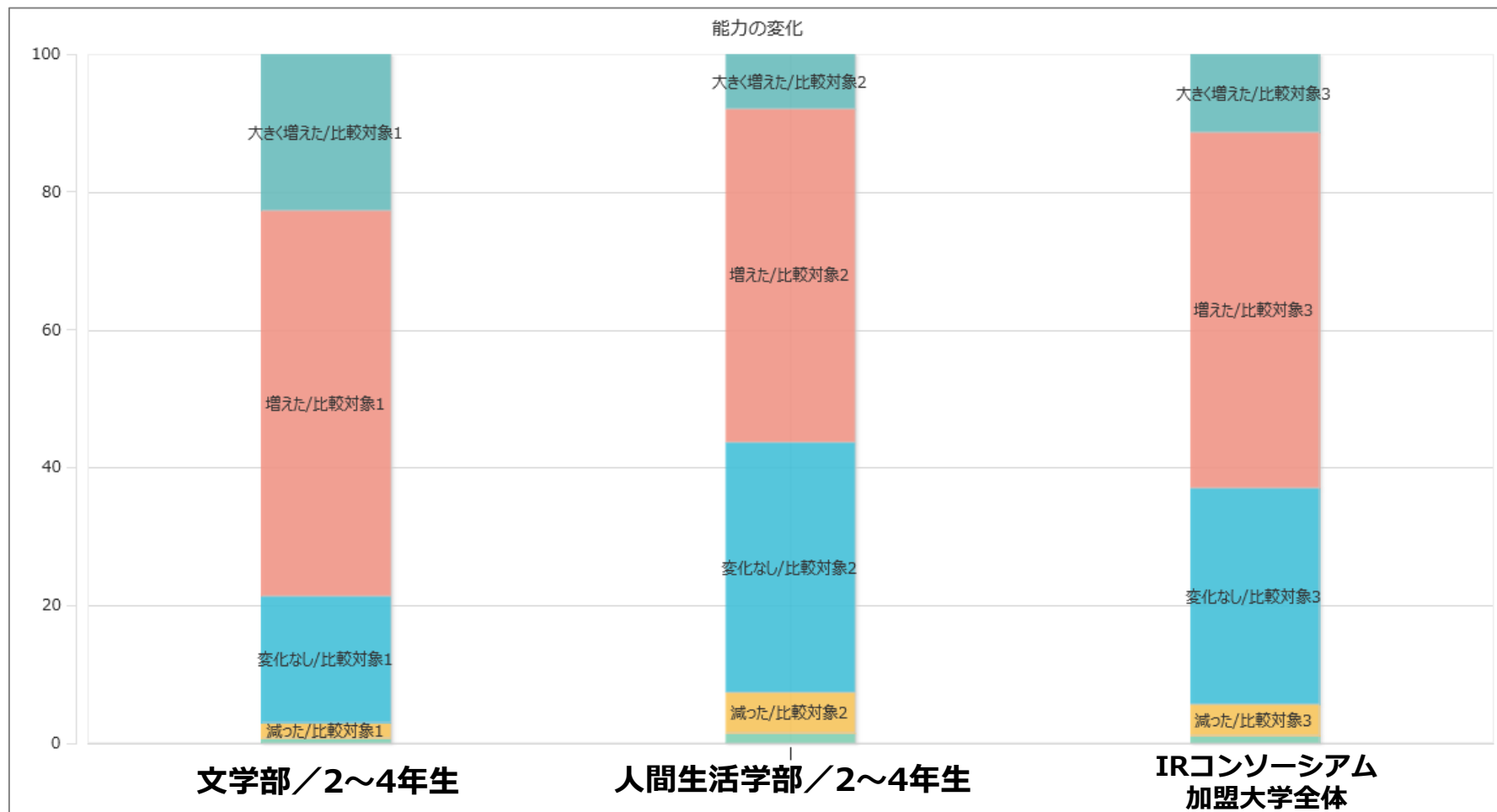


### 【コメント】

増えたとの回答は、文学部で全大学並み、人間生活学部で低めだった。  
ただし、変化なしの回答も多かった。異文化の人々に関する知識と比較すると、獲得できたという回答が少ない傾向にある。  
(有意差：文学部>人間生活学部)

## 6-6. 文章表現の能力

[Q7-L]

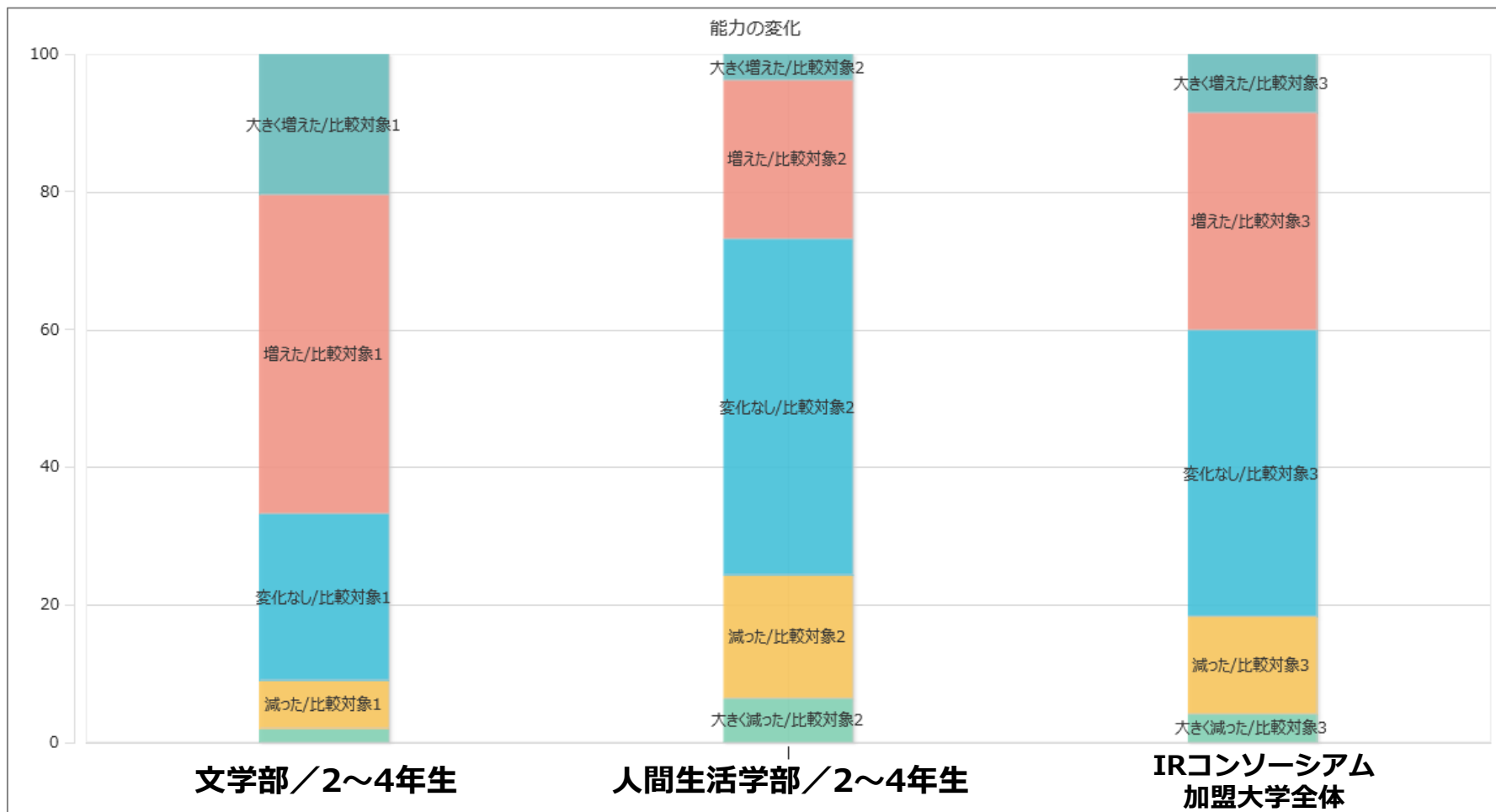


### 【コメント】

文学部が全大学より高めで人間生活学部が低めだった。  
(有意差：文学部＞人間生活学部)

# 6-7. 外国語の運用能力

[Q7-M]

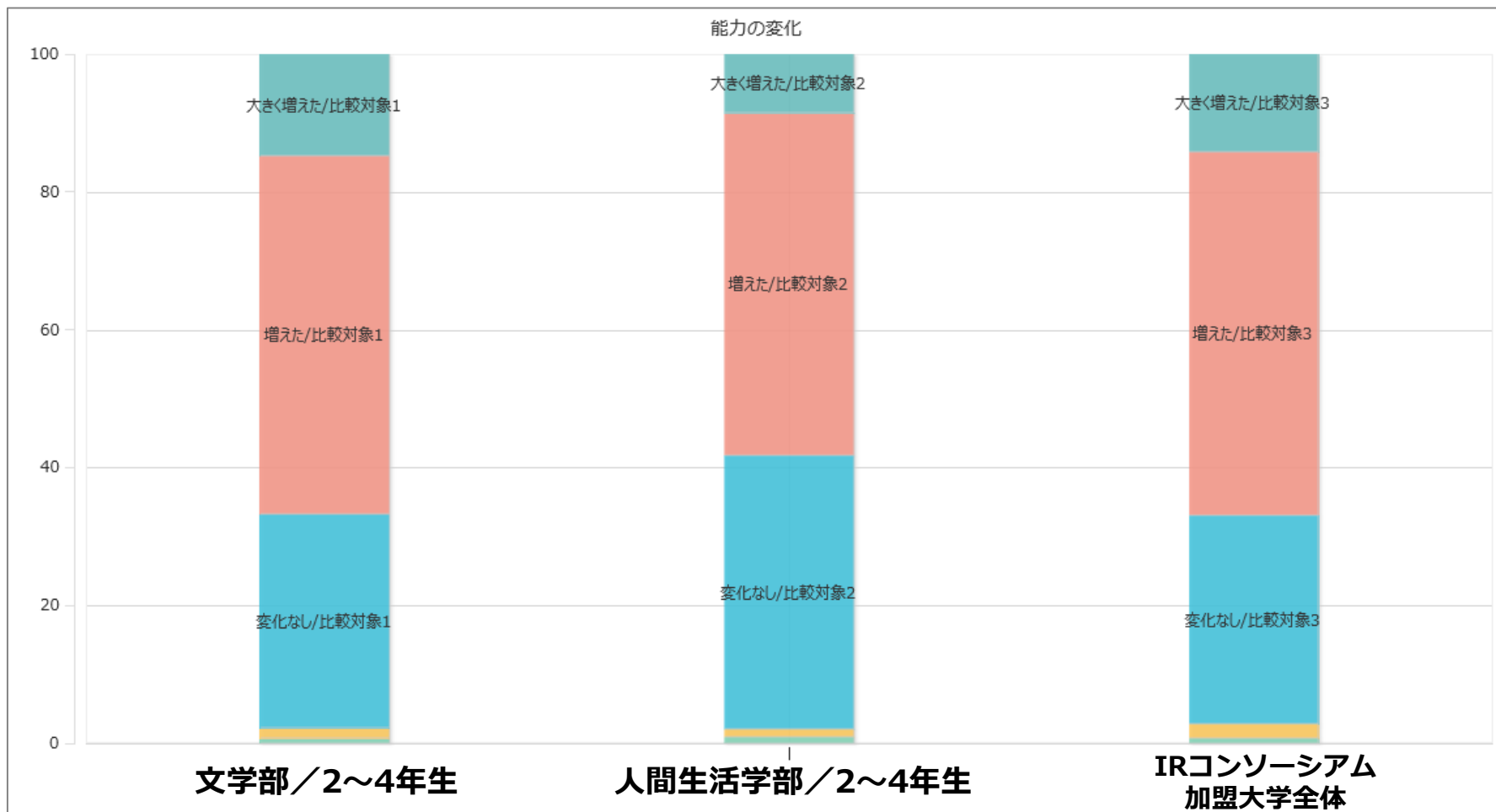


## 【コメント】

文学部が全大学より高めで人間生活学部が低めだった。  
(有意差：文学部＞人間生活学部)

## 6-8. プレゼンテーションの能力

[Q7-0]



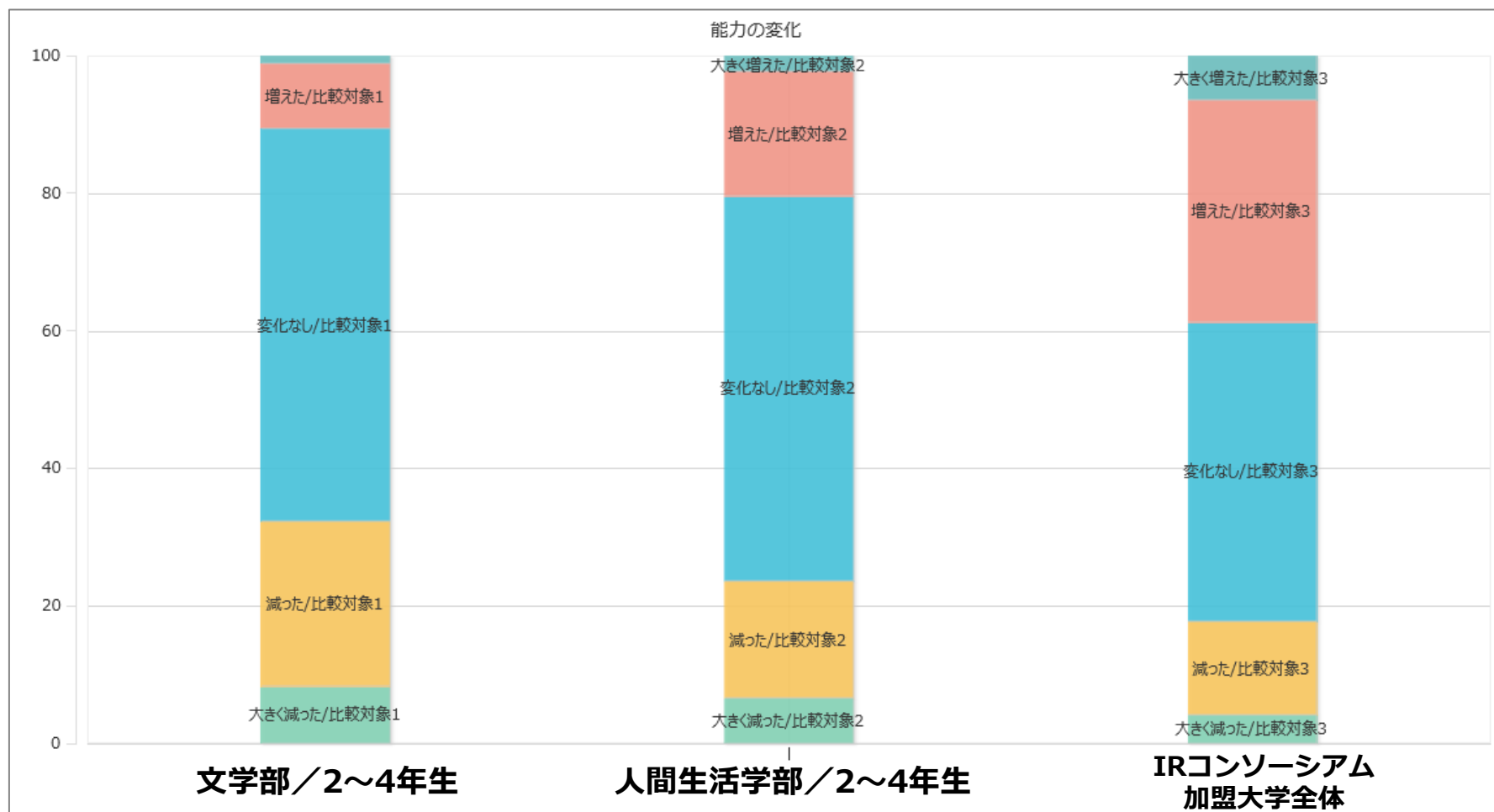
### 【コメント】

両学部とも全大学並みだが、人間生活学部でやや低く、学部間の比較では文学部の方が有意に高かった。  
(有意差：文学部＞人間生活学部)



## 6-9. 数理的な能力

[Q7-P]

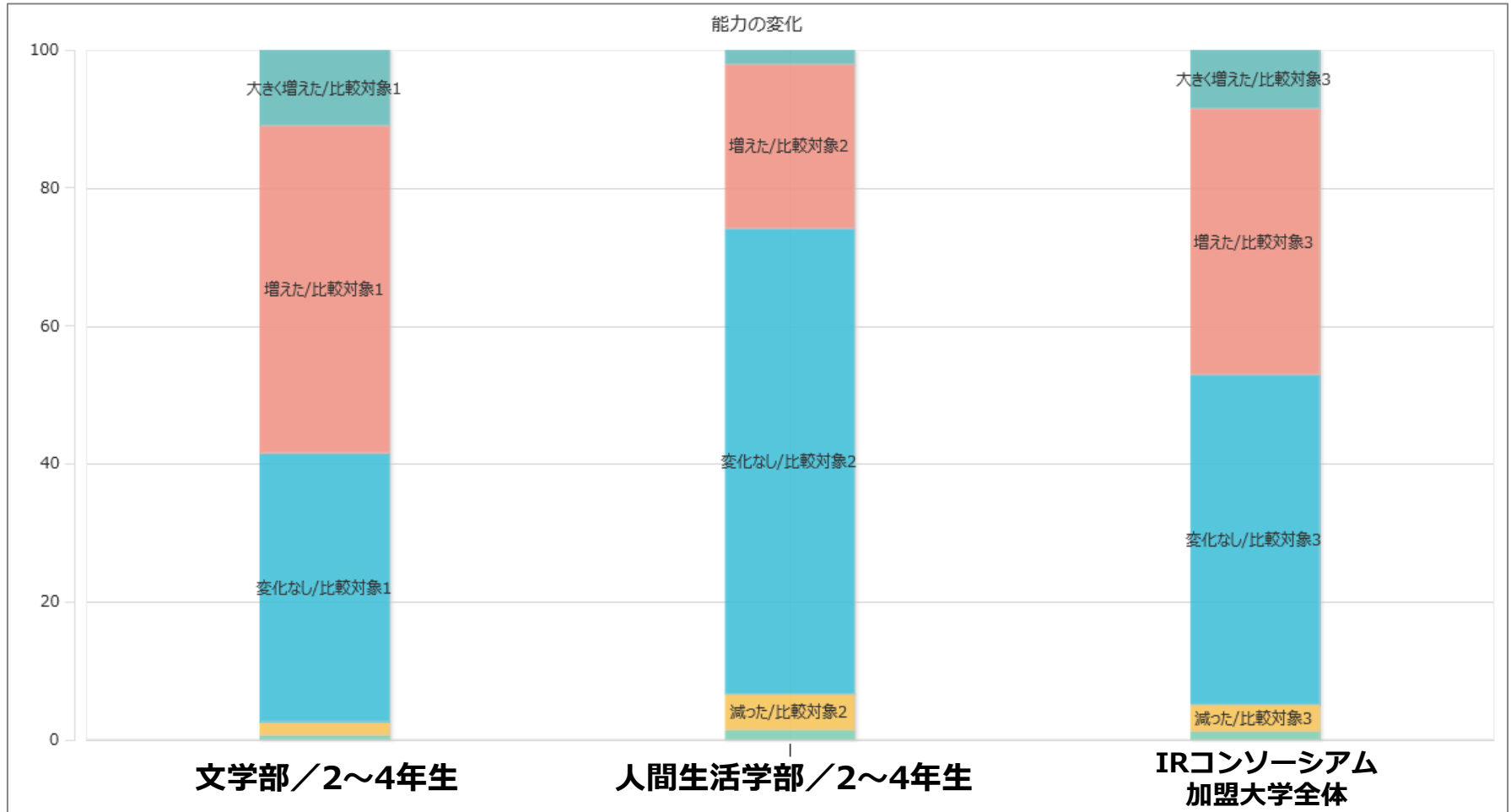


### 【コメント】

文学部で全大学よりも著しく低く、人間生活学部でも全国よりは低い結果となった。  
(有意差：文学部<人間生活学部)

# 6-10. グローバルな問題の理解

[Q7-S]



## 【コメント】

文学部が全大学より高めで人間生活学部が低めだった。

文学部 > 人間生活学部

(有意差：文学部 > 人間生活学部)

社会が即戦力としての能力育成を大学に求める中で、中教審より示された高等教育のグランドデザインにおいても、知識修得を基準とした教育から一步進んだ、思考力・実践力を育成する教育への転換が示されている。このような社会的背景の中で本学のアンケート結果から見えてくる本学学生の課題をまとめると、次のようなことが言える。

文学部生は、授業の中での豊富な知識と体験をベースとし、社会との関わりを考え、時には行動に移したりする取り組みが一層求められる。一方、人間生活学部生は授業以外でも自ら能動的に学修する姿勢をより高め、日本以外の国々に対する知識、興味を高めることが一層求められる。

大学としては、以下の取り組みが求められる。

1. AL、PBL、SLなどの導入による実践力の向上
2. 履修上限単位の引き下げ、カリキュラムのスリム化など授業負担の軽減
3. 知識の詰め込みではなく、学生の自学自習を必要とする授業の展開
4. 学部間の施設・設備格差の是正